アルピタGX電動タイプ〔ソーラー/DC12V仕様〕

取付説明書

●このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。

＜施工の前に＞

■正しく施工、組付けをしていただくために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。

■設置場所の確認

- 施工場所に寸法的に正しく納まるか確認してください。
- 主屋の屋根からの雪の落下を直接受けない位置かどうか確認してください。
- 施工場所の気象条件（風、雪等）に合った商品かどうか確認してください。
- 強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上等の施工は避けてください。
- 扉の通り路に障害物がないか確認してください。
- ソーラー仕様の場合、ソーラーパネルの設置場所が日当りの良い場所か、建物や樹木の影にならないかどうか確認してください。

■規格表、梱包明細で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

■組立、施工途中では

- ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け固定してください。
- 取付説明書の順序通り組付けてください。製品の強度等、性能を低下させる場合が発生します。
- アルミ製品と銅板やガラスなどの異種金属が接触しないようにしてください。

■基礎工事について

- 基礎寸法は、取付説明書の通りの寸法としてください。地盤の種類によっては、倒壊の危険性が発生します。
- 基礎コンクリートには、塩分を含む砂、および塩素系のモルタル混和剤を使用しないでください。

■製品の改造は絶対に行わないでください。

■施工完了後は

- ボルト、ネジなどに緩みがないか確認してください。
- 施工中の汚れは取り除き、誤ってつけたキズは、補修塗装をしてください。

■施工終了後、「取付説明書」は施主様にお渡しください。

＜施主様へ＞

■使用前に必ず＜取扱説明書＞をお読みください。

■梱包明細書

1 本体セット

名　称		員数
本体		1
部品箱	コントロールカバー	1
	コントロールカバー取付ネジ　M4×10トラス	6
	吊元（電動）柱キャップ	1
	吊元（電動）柱キャップ取付ネジ　M4×10トラス	2
	吊元（電動）柱本体取付ネジ　M5×80トラス（ガイド付）	12
	転倒防止金具	※2(4)
	転倒防止金具取付ネジ　M5×12ナベ	※4(8)
	リモコンアンテナ	1
	リモコン送信器（小箱入）	※1(2)
	施主様用取扱説明書（保証書付）	1

※500S、550S、600Sの場合、リモコン送信器は2セット入っています。
※500S、550S、600Sは転倒防止金具が4個、取付ネジが8個入っています。

2 柱セット

名　称		員数
吊元柱　※左引き用（右引き用）		1
戸当り柱		1
リミットスイッチ用ケーブル（埋設管付）		1
部品箱	コントロールボックス　※左引き用（右引き用）	1
	コントロールボックス取付ネジ　M4×10トラス	2
	ケーブル固定金具	5
	取付説明書	1

※吊元柱およびコントロールボックスには左引き用と右引き用がありますのでご注意ください。
（左引き＝外観左吊元、右引き＝外観右吊元）

3 レール

名　称	員数
レール	1
アンカーボルト（ナット付）	6
レールジョイント金具	2
M5×16ナベ小ネジ	8
六角ナット　M5用	8
バネ座金　M5用	8

4 レール取付部品

名　称	員数
レール・柱連結金具	4
レール・柱取付裏板	2
M5×16ナベ小ネジ	8
M5×10ナベ小ネジ	4
六角ナット　M5用	8
バネ座金　M5用	8

5 ソーラー電源セット

名　称	員数
ソーラーパネル	1
バッテリー	1
取付説明書	1
取扱説明書	1

6 ソーラーパネル取付部品（ポール建てタイプ）

名　称	員数
ポール	1
ソーラーパネル取付ネジ　M4×8サラ	1
アンカー棒　ϕ9×200	12

7 ソーラーパネル取付部品（カーポート取付けタイプ）

名　称	員数
カーポート用取付ベース	1
取付ベース固定ネジ　ϕ5×13ナベピアス	1
ソーラーパネル取付ネジ　M4×8サラ	12

8 ソーラー用電源ケーブルセット

名　称	員数	
	KAR11	KAR12
	8m	20m
※ソーラー用電源ケーブル（配線管付）8m	1	ー
※ソーラー用電源ケーブル（配線管付）20m	ー	1

※ソーラー電源を使用する場合、必ず必要になります。

9 トランス電源ユニット

名　称	員数	
	35W	60W
トランス電源ユニット　35W	1	ー
トランス電源ユニット　60W	ー	1
取扱説明書	1	1

10 トランス用電源ケーブルセット

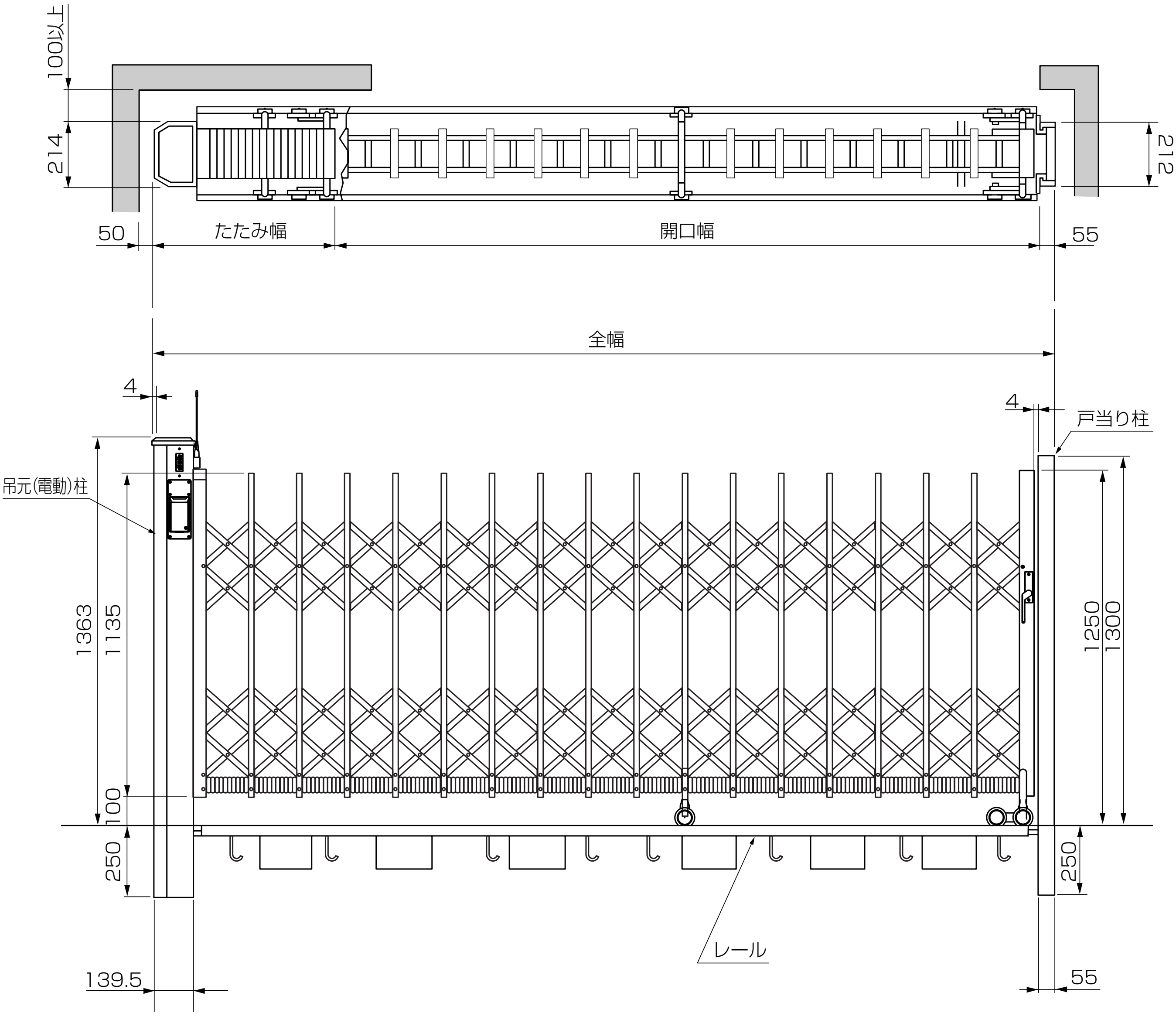
名　称	員数	
	KAR13	KAR14
	10m	20m
※トランス用電源ケーブル（配線管付）10m	1	ー
※トランス用電源ケーブル（配線管付）20m	ー	1

※トランス電源を使用する場合、必ず必要になります。

11 オプション

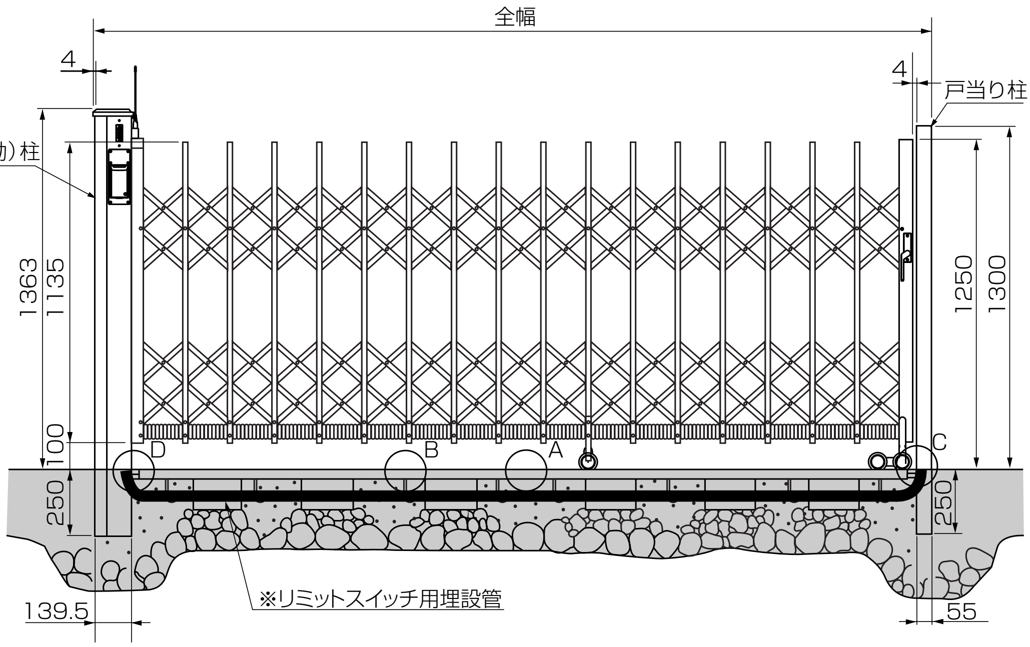
名　称
リモコン送信器　MDCー3〈KYZ77〉
リモコンアンテナ延長ケーブルセット（ケーブル長3m）〈KYZ81〉
外部押ボタンスイッチセット〈KUK51〉
交換用バッテリーパック〈KAR21〉
トランス電源ユニット用スタンド〈LYH73〉

1．各部の名称および基本寸法

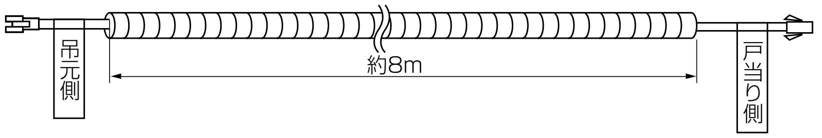


名　称	開口幅	全　幅	たたみ幅	レール	レール取付金具	キャスター数
270S	2,199	2,908	650	125＋150（37mm切断）	1	2
300S	2,424	3,195	712	150×2	1	2
350S	2,837	3,695	799	175×2	1	3
400S	3,250	4,195	886	200×2	1	3
500S	4,080	5,170	1,031	150×2＋200	1	4
550S	4,493	5,670	1,118	150＋200×2	1	4
600S	4,906	6,170	1,205	200×3	1	4

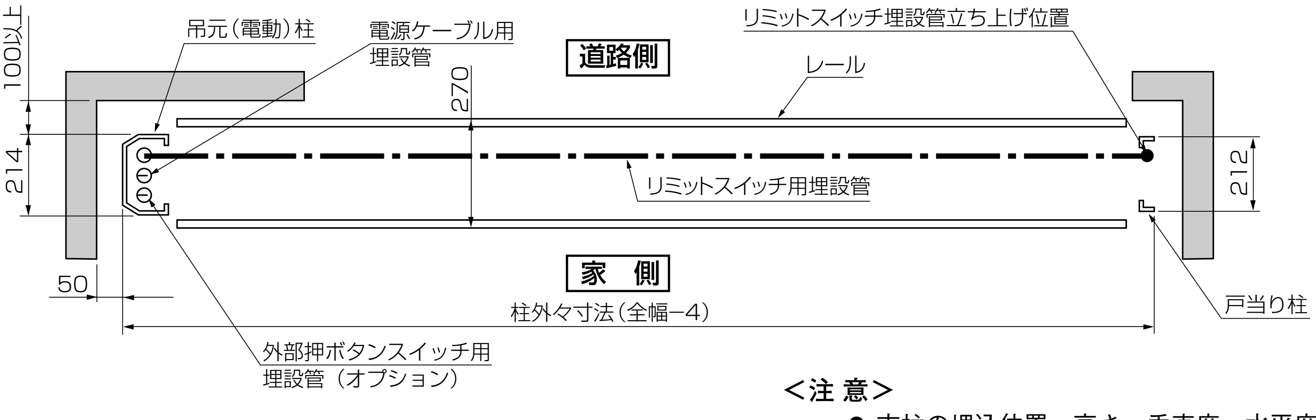
2. 施工寸法



※リミットスイッチ用ケーブル（埋設管付）



リミットスイッチ用ケーブルには、向きがあり、区別するシールが貼ってありますので確認のうえ、埋設してください。



名　称	全　幅	柱外々寸法
270S	2,908	2,904
300S	3,195	3,191
350S	3,695	3,691
400S	4,195	4,191
500S	5,170	5,166
550S	5,670	5,666
600S	6,170	6,166

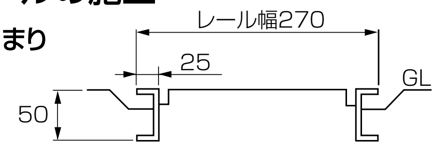
<注 意>

- 支柱の埋込位置・高さ・垂直度・水平度を十分に調整してください。調整が不十分な場合、門扉の作動に支障が生じる事があります。
- 吊元柱側の各埋設管は、吊元柱の内側に100mm以上立ち上げてください。
  また、各ケーブルはG.Lから1100mm以上の立ち上げが必要となります。
- 戸当り柱側のリミットスイッチ用ケーブルの埋設管は、図の位置にG.Lから100mm以上の立ち上げが必要となります。

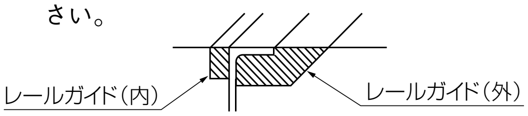
3．レールの施工

3—1　レールの施工

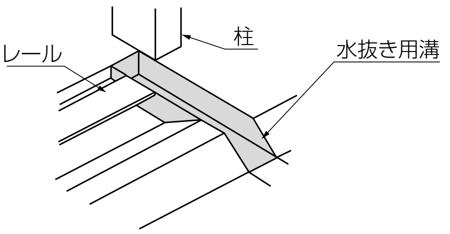
レールの納まり



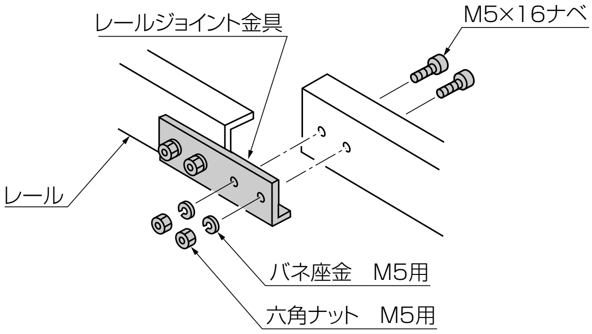
❶ 施工の際、レールガイドを図のように両面テープの剥離紙をはがし、レール本体に貼り付けてください。



❷ 戸当り柱側はレールガイド内、外ともレールより10㎜長くなるように貼り付けて施工してください。
❸ コンクリート硬化後、レールガイド（発泡スチロール）を取出してください。
❹ レールガイドを使用しない場合、コンクリート避けをしてください。
❺ 水勾配等を利用し、柱～レール間に水抜き用溝を作り、中に水がたまらないように施工してください。（中にたまった水が凍結した場合、作動しなくなる事がありますので注意してください。）



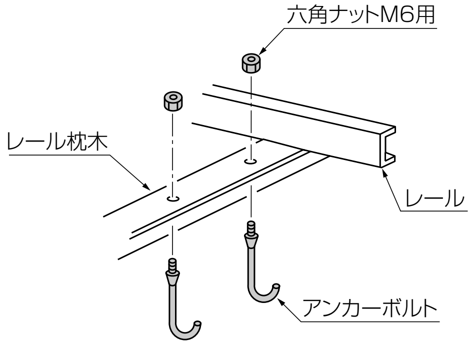
3—2　レールの連結　※4ページA部



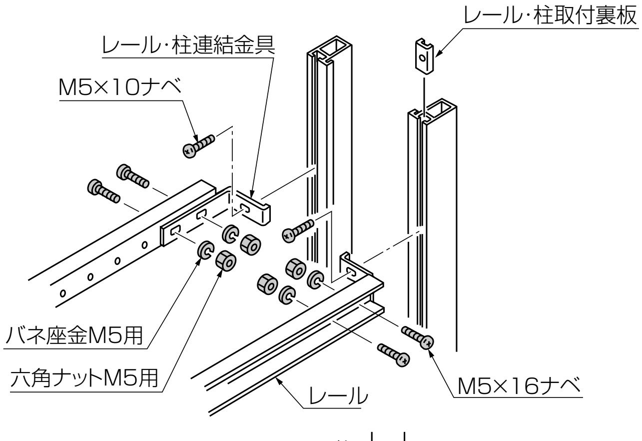
3—3　アンカーボルトの取付け　※4ページB部

<注 意>

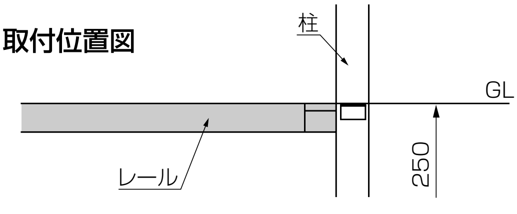
● アンカーボルト取付孔は、レール1組に対して6コあります。



3—4　レール・戸当り柱の取付け　※4ページC部

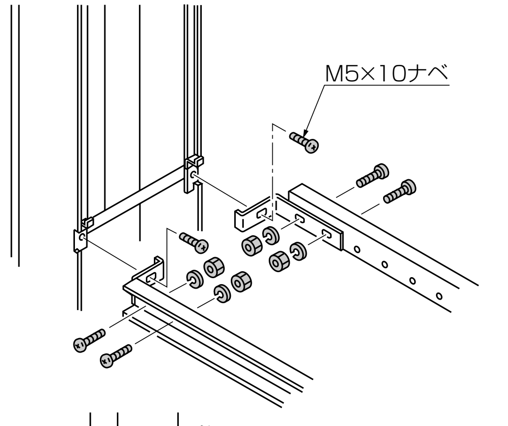


取付位置図

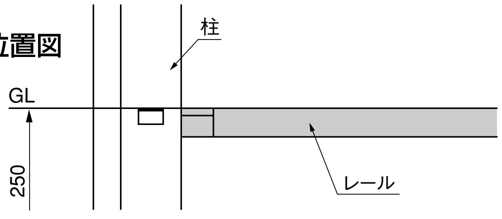


❶ レール・柱取付裏板をレール・柱連結金具に仮止めして、柱のみぞに入れてから柱のG.Lラインに合わせて固定してください。

3—5　レール・吊元柱の取付け　※4ページD部



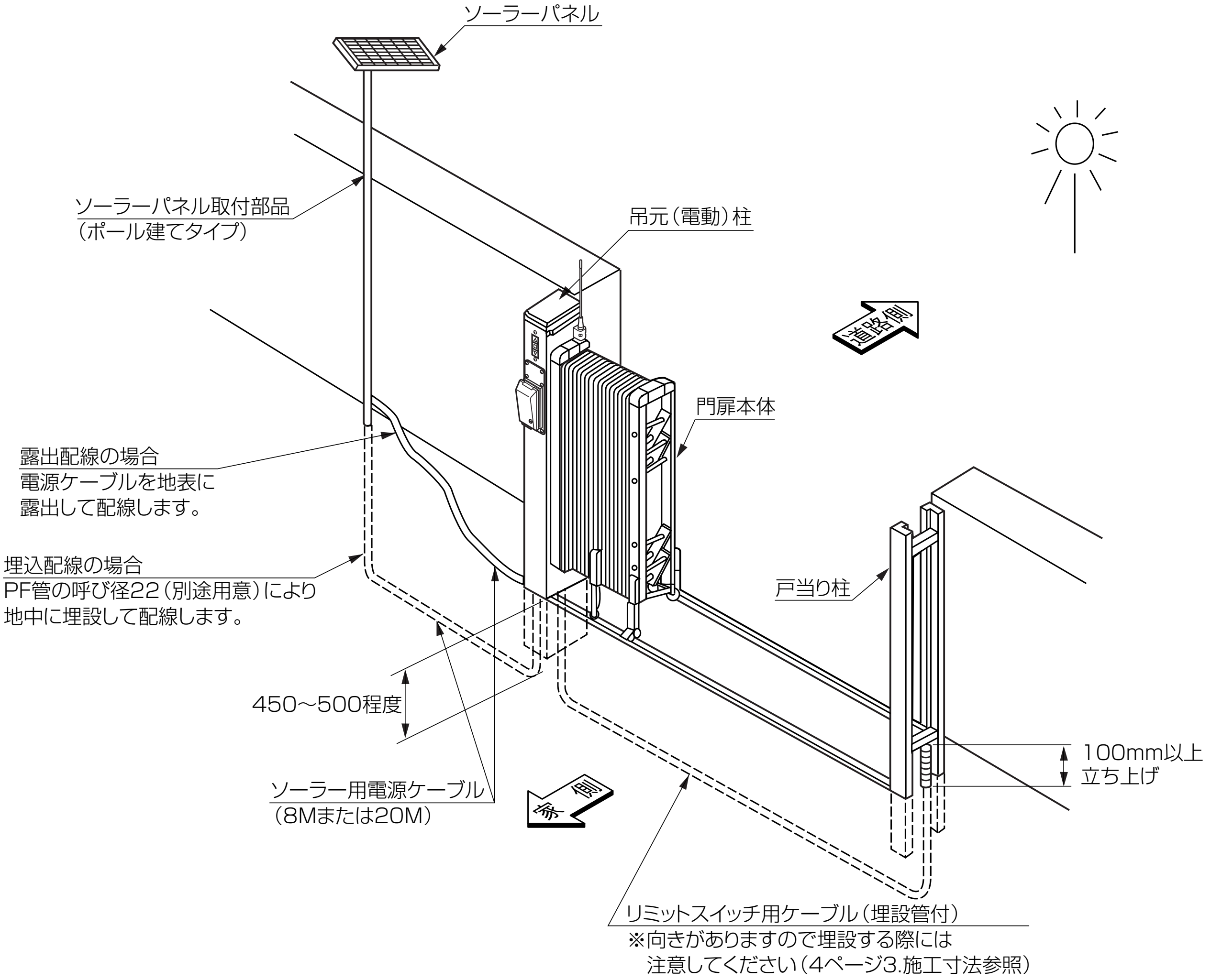
取付位置図



4．ソーラー電源を使用する場合の配線

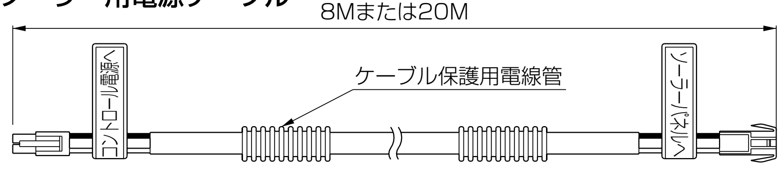
※別途、ソーラー電源セット,ソーラーパネル取付部品（ポール建てタイプまたはカーポート取付タイプ）,ソーラー用電源ケーブルが必要です。

4−1　電源の配線



A図（図は右引き、ポール建てタイプを示す。）

ソーラー用電源ケーブル



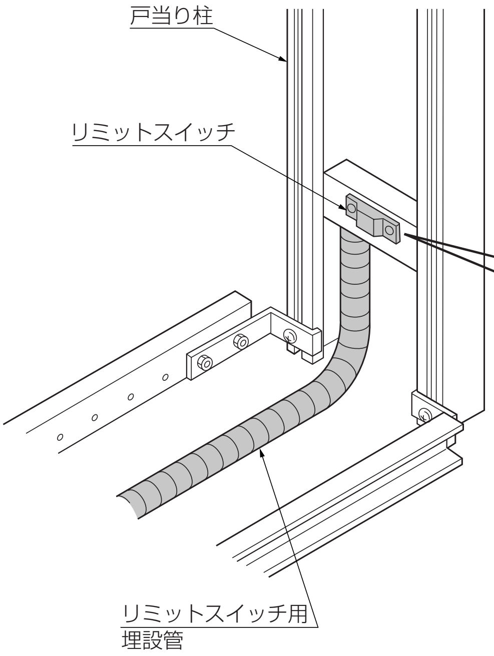
ソーラー用電源ケーブルには向きがあり、方向を区別するシールが貼ってありますので埋込配線する場合、確認の上、埋設してください。

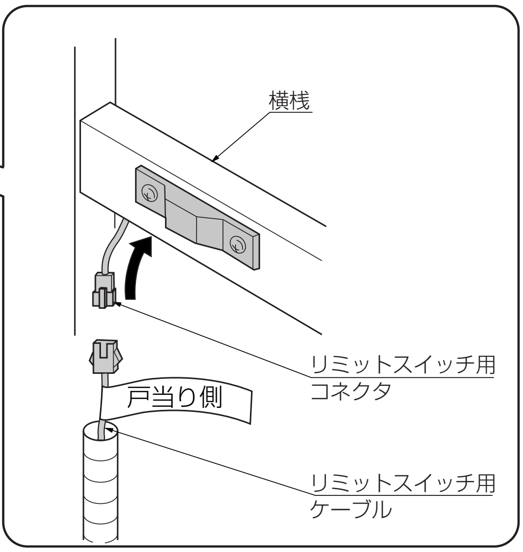
＜注 意＞

- ソーラーパネルおよびソーラーパネル取付部品の施工に関しましては、「ソーラー電源セット」の取付説明書をご参照ください。
- ソーラー電源を使用する場合、施工条件や使用条件に制限がありますのでご注意ください。
  詳しくは、「ソーラー電源セット」の取付・取扱説明書をご参照ください。
- ソーラー用電源ケーブルを埋込む場合、別途埋設用PF管 呼び径22（松下電工品番DM322相当品）が、必要になりますのでご用意してください。

4—2　戸当り柱リミットスイッチの配線

❶ 戸当り柱のリミットスイッチ用コネクタとリミットスイッチ用ケーブルのコネクタを接続し横桟の中へ押込んでください。また埋設管も横桟の中へ入れてください。

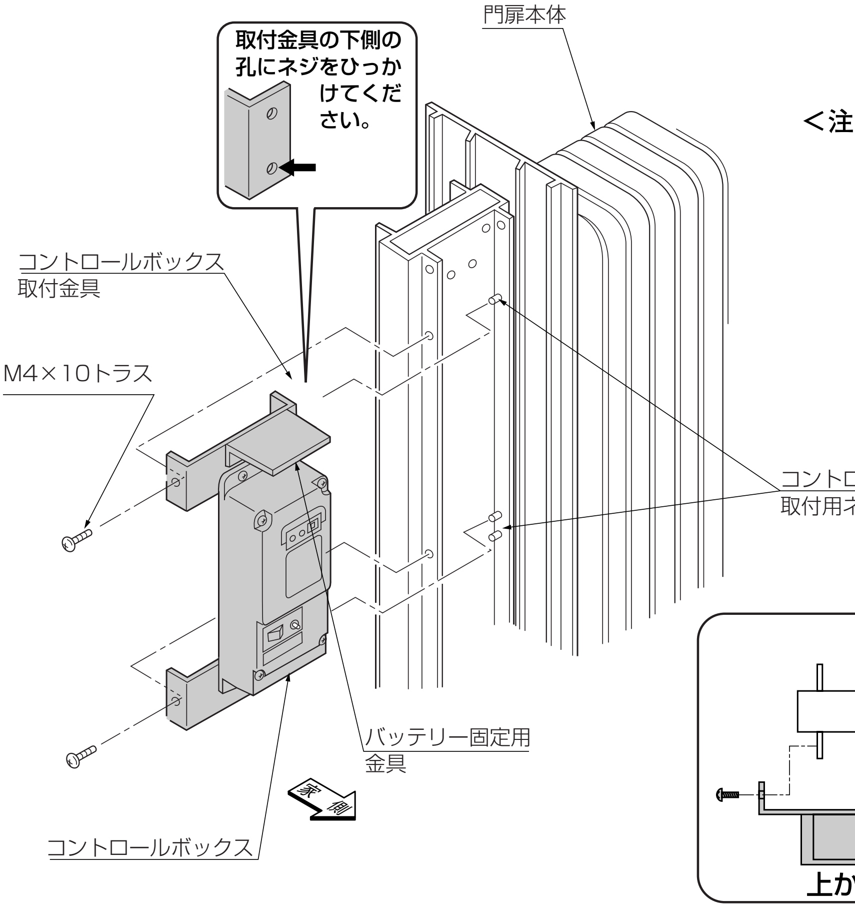


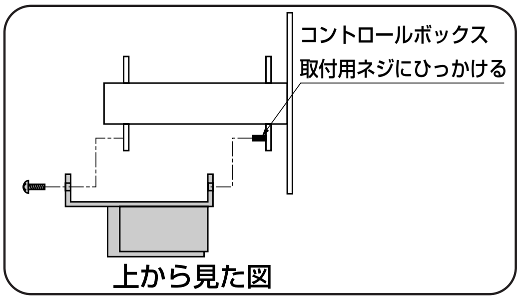


4—3　コントロールボックスの取付け

❶ コントロールボックスを本体に取付けてください。

＜注 意＞
- コントロールボックスは門扉本体の家側に取付けてください。
- コントロールボックスには、左右があります、図は右引きを示しますが、左引き用も同様にして取付けてください。
- 左引きの場合コントロールボックスは反対側に取付きます。





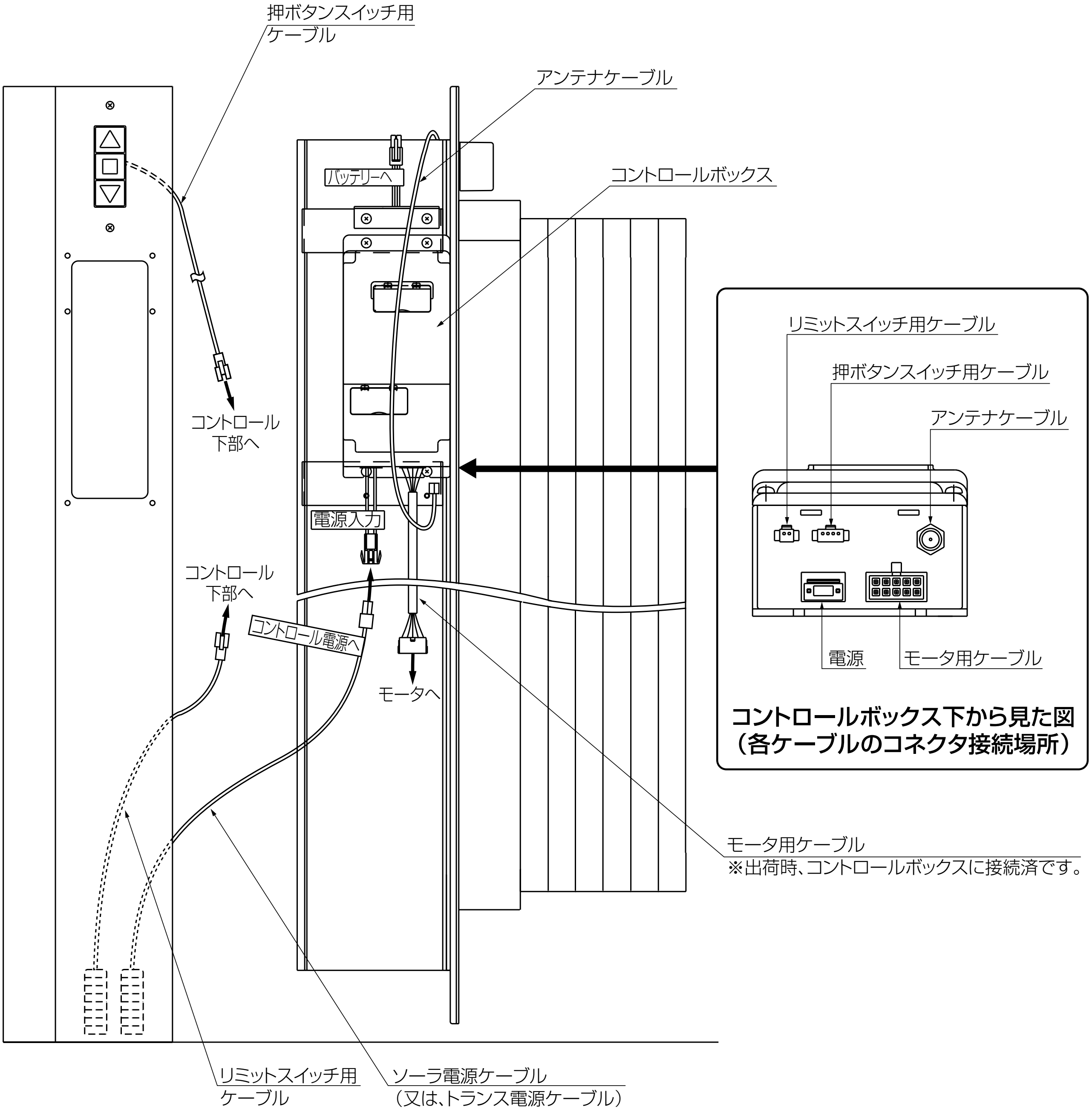
4．ソーラー電源を使用する場合の配線（つづき）

4−4　コントロールボックスの配線　※図は右引きを示します

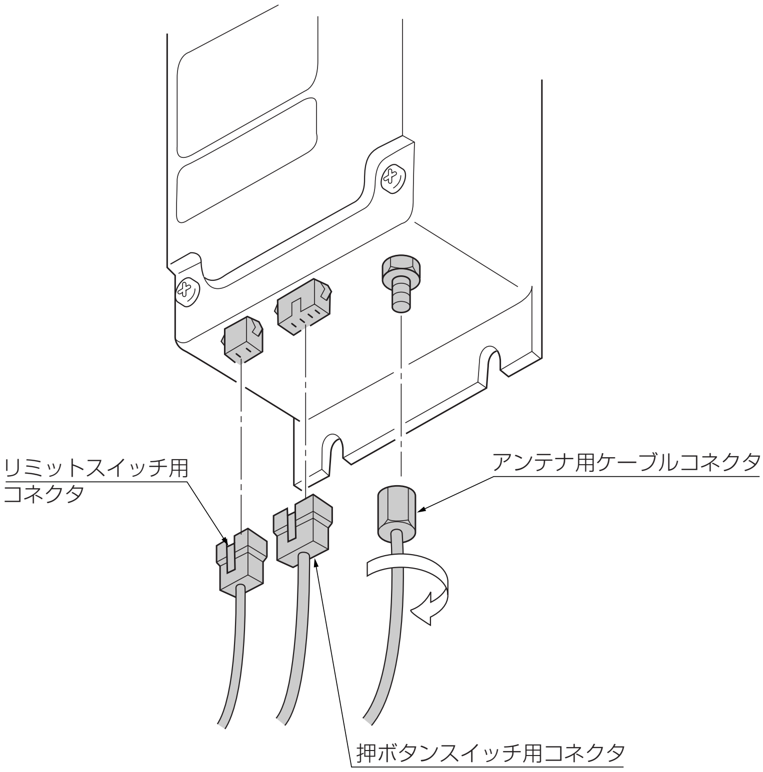
❶ ソーラー用電源ケーブルをコントロールボックスから出ている「電源入力」という表示のあるコネクタに接続してください。

＜注 意＞

● トランス仕様の場合、同様にしてトランス用電源ケーブルを接続してください。



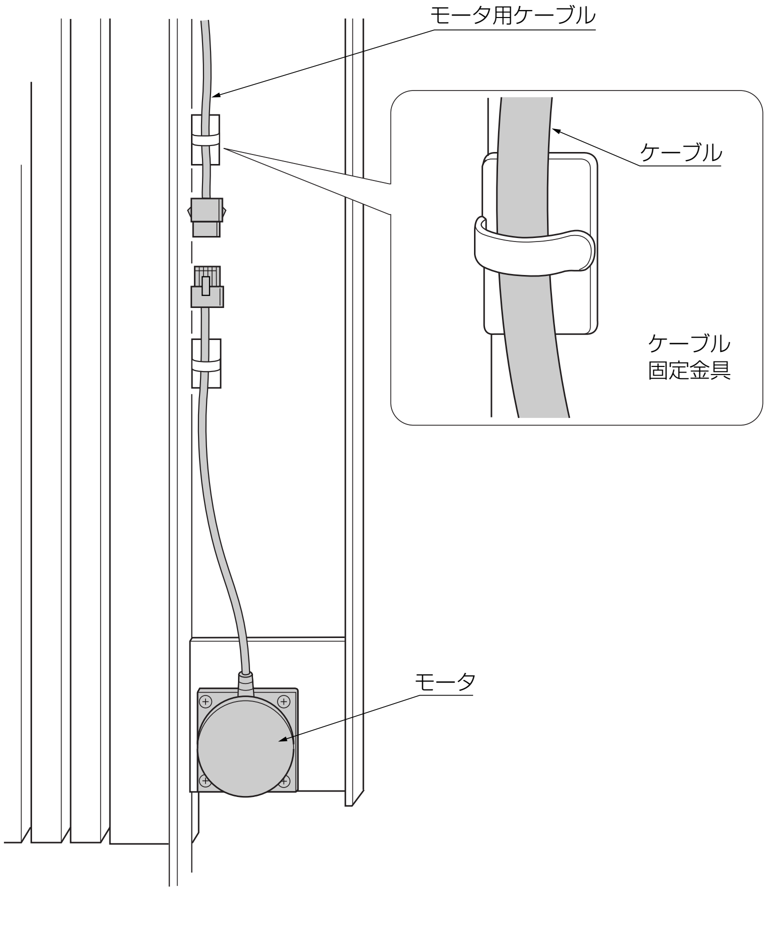
コントロール下部



❷ 図に従い、コントロールボックスの下部にアンテナ用ケーブル、押ボタンスイッチ用ケーブル、リミットスイッチ用ケーブルを差し込んでください。

＜注 意＞

● アンテナ用ケーブルのコネクタは、しっかりとねじ込んでください。受信感度に影響します。



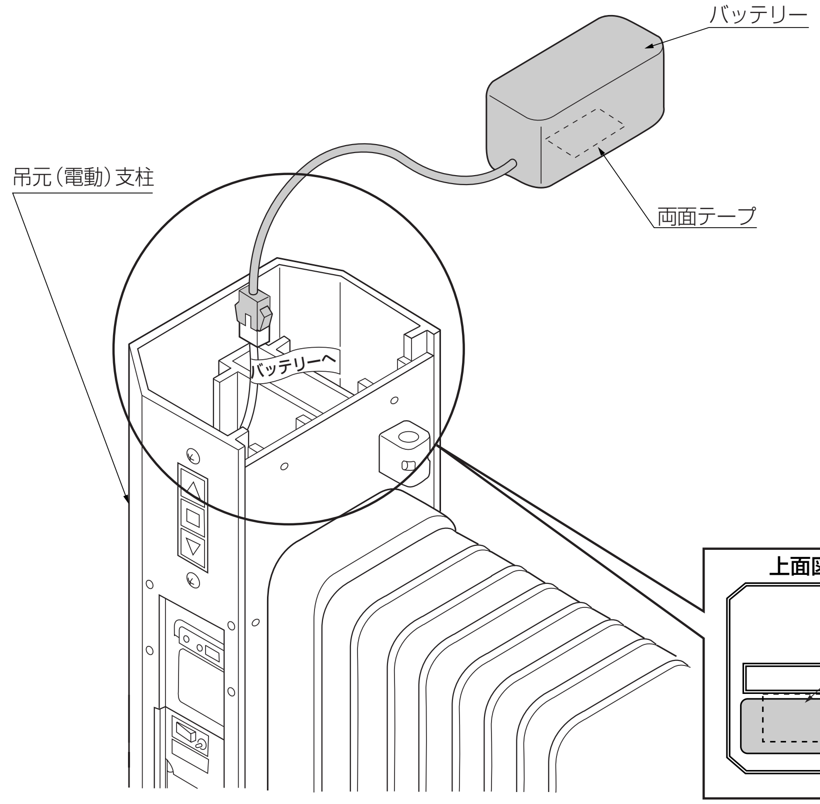
❸ モータ用ケーブルは右引きの場合、コントロールボックスの上からケーブルをまわし、モータと接続してください。
左引きの場合、モータ側にコントロールボックスが取付きますのでコントロールボックスの下でモータと接続してください。

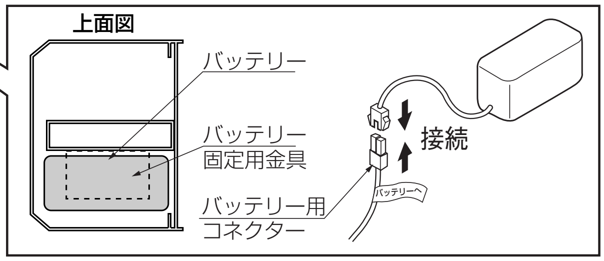
❹ ケーブルはケーブル固定金具で固定してください。

❺ 電源ケーブル、リミットスイッチ用ケーブルも同時に付属のケーブル固定金具で各所を固定してください。

4．ソーラー電源を使用する場合の配線（つづき）

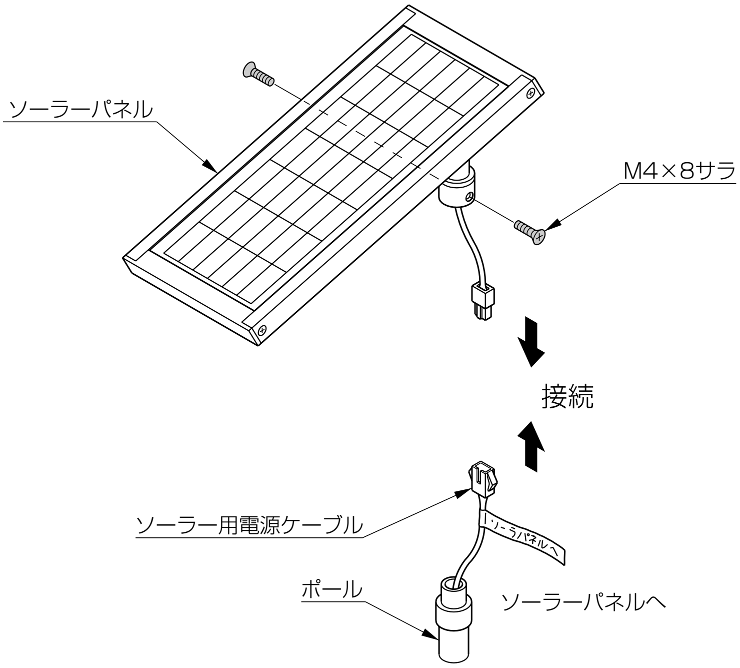
4–5　バッテリーの取付けおよび配線





❶ バッテリーの底面に貼付けてある両面テープで、コントロールボックスの上に取付いているバッテリー用固定金具にしっかりと固定してください。
❷ バッテリー用コネクタに接続してください。

4–6　ソーラーパネルの配線　※ソーラーパネルの取付詳細は「ソーラー電源セット」の取付説明書をご参照ください。



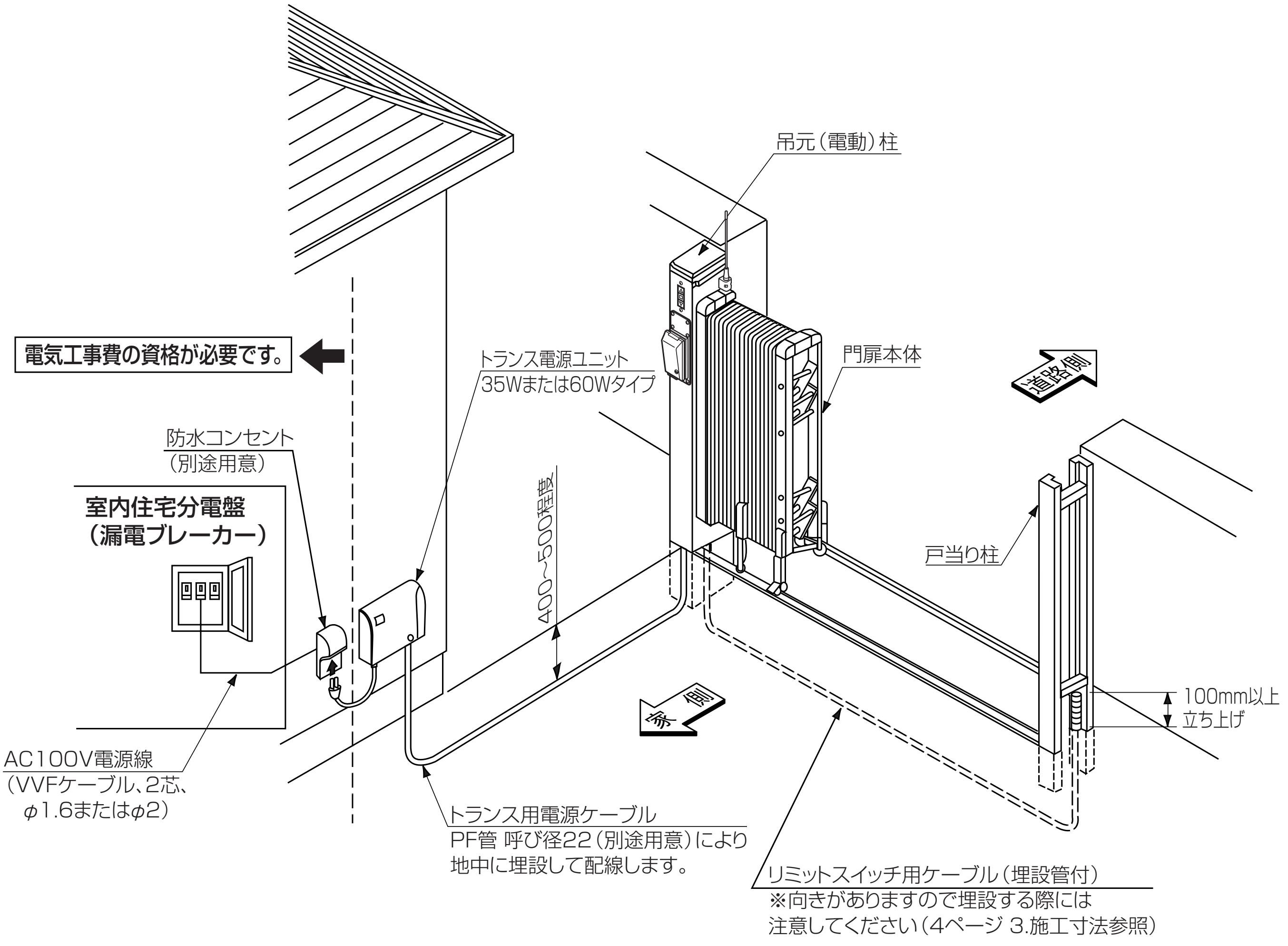
❶ ソーラーパネルから出ているコネクタとソーラー用電源ケーブルのコネクタを接続してください。

<注 意>
● 図はポール建てタイプの場合です。カーポート取付タイプの場合も同様に接続してください。

5. トランス電源ユニットを使用する場合の配線

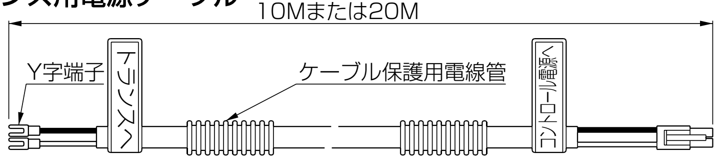
※別途、トランス電源ユニット（35Wタイプまたは60Wタイプ）,トランス用電源ケーブルが必要になります。

5―1　電源の配線



A図（図は右引きを示す。）

トランス用電源ケーブル



トランス用電源ケーブルには向きがあり、方向を区別するシールが貼ってありますので埋込配線する場合、確認の上、埋設してください。

<注 意>

- トランス電源ユニットの施工の詳細につきましては、別途トランス電源ユニットの取扱説明書をご参照ください。
- 住宅内の分電盤に接続された屋側の防水コンセント(別途用意 松下電工品番ＷＫ4102Ｋ相当品)をご使用ください。
- トランス用電源ケーブルを埋込む場合、別途埋設用ＰＦ管 呼び径22(松下電工品番ＤＭ322相当品)が必要になりますので、ご用意ください。
- トランス電源ユニットには、接続容量に制限がありますのでご注意ください。
  （13ページ「(3)トランス電源ユニットの接続容量について」参照。）

5．トランス電源ユニットを使用する場合の配線（つづき）

5ー2　戸当り柱リミットスイッチの配線

7ページ 4−2 を参照して施工してください。

5ー3　コントロールボックスの取付け

7ページ 4−3 を参照して施工してください。

5ー4　コントロールボックスの配線

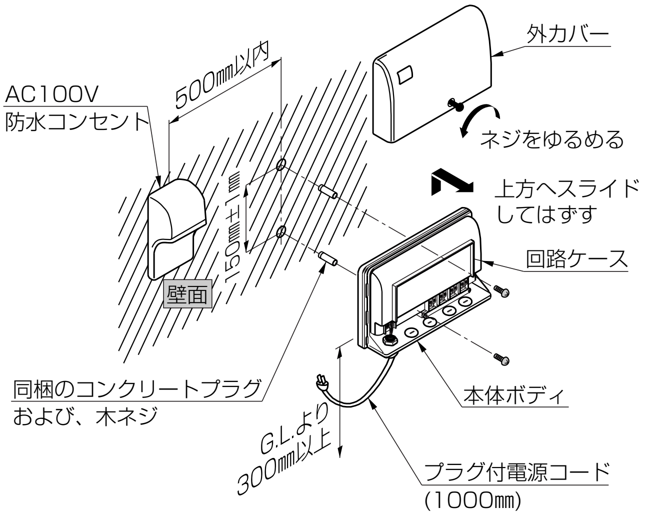
8,9ページ 4−4 を参照して施工してください。

5ー5　トランス電源ユニットの配線

(1) トランス電源ユニットの取付け

※詳細は、別途トランス電源ユニットの取扱説明書をご参照ください。

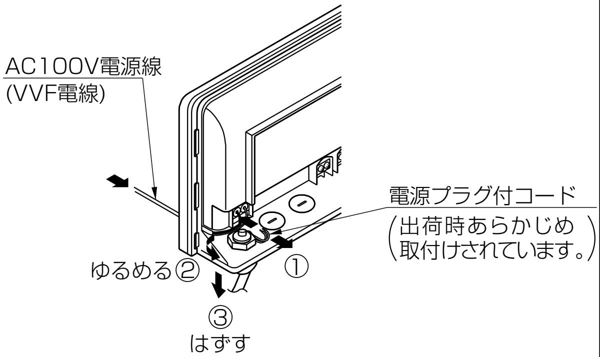
※防水コンセントからAC100V電源を接続する場合



❶ 住宅側の壁面に設置されたコンセントの近く（500mm以内）に電源ユニットを取付けてください。

❷ 壁面の材質や厚みに合わせて、同梱のネジで取付けてください。
コンクリート材‥‥コンクリート用プラグ
木材等‥‥木ネジ

※住宅側からAC100V電源を直接取る場合



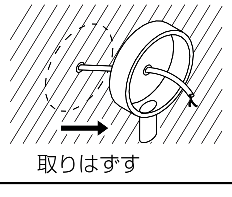
❶ 電源ユニット内に引き込んだ、AC100V電源線を電源線入力用速結端子台に接続します。

<注 意>

● プラグ付電源コードを取りはずしてください。

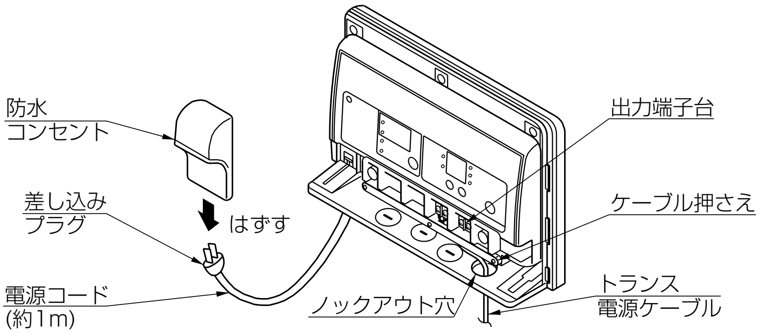
壁面に露出型ジョイントボックスがついている場合

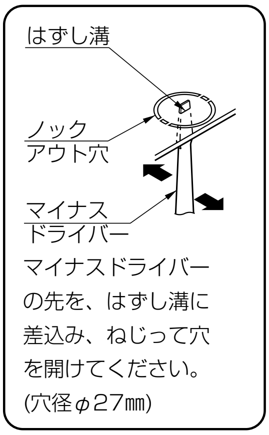
※ジョイントボックスを取りはずしてから電源ユニットを取付けてください。

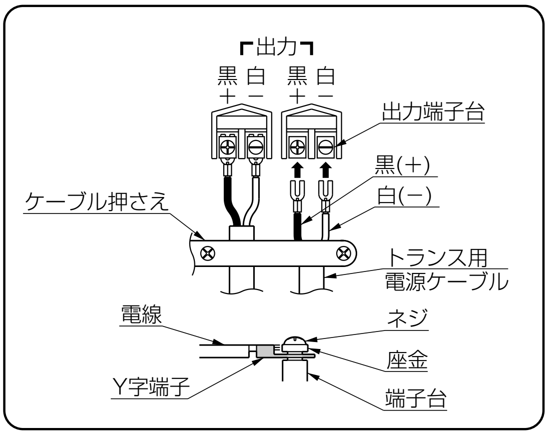


(2) トランス電源ユニットへの接続

※配線を接続するときには、必ず防水コンセントから電源コードの差し込みプラグをはずしてください。







❶ トランス電源ユニット本体のノックアウト穴をはずしてください。

❷ トランス用電源ケーブルをノックアウト穴に通し、出力端子台に極性(黒(＋),白(－))を合わせて接続してください。

＜注 意＞

- 極性(＋，－)を絶対に間違えないでください。逆接続するとコントロールボックス内のヒューズが切れ、電動で動作しなくなります。
- Y字端子は端子台の奥まで確実に差し込み、ネジを堅固に締付けてください。接続不良による発熱の原因になります。
- トランス用電源ケーブルを切詰めた場合、付属のY字端子を使用してください。

❸ 電線ケーブルを本体ケースにあるケーブル押さえめで固定してください。

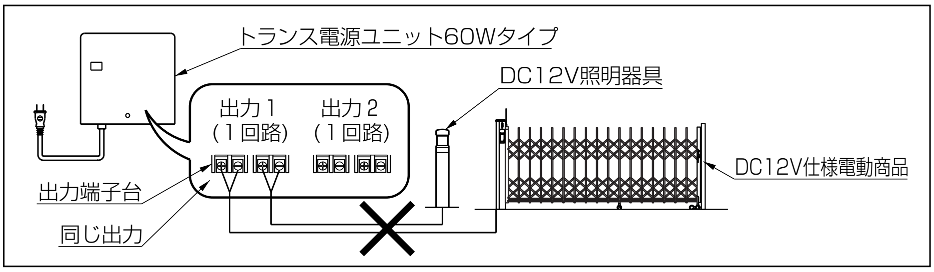
(3) トランス電源ユニットの接続容量について

	電動商品(DC12V)	照明器具(DC12V)
35Wタイプ	最大2台まで (1台20W以下)	×使用不可

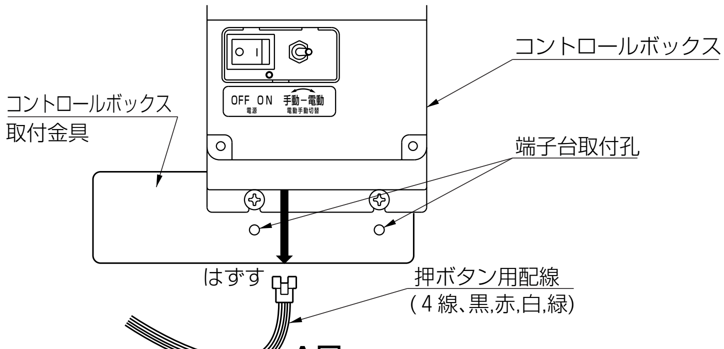
		出力	電動商品(DC12V)	照明器具(DC12V)
60Wタイプ	電動商品(DC12V)のみに使用する場合	出力1	最大2台まで (1台20W以下)	×使用不可
		出力2	最大2台まで (1台20W以下)	×使用不可
	電動商品(DC12V)と照明器具を使用する場合	出力1 (または出力2)	最大2台まで (1台20W以下)	×使用不可
		出力2 (または出力1)	×使用不可	最大30Wまで 詳細はトランス電源ユニット取扱説明書をご参照ください

＜注 意＞

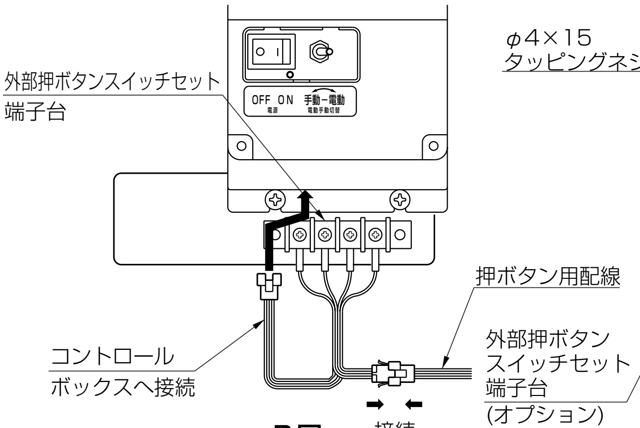
- 60Wタイプは、電動商品と照明器具を接続することはできますが(2回路あるため)同じ出力に同時に電動商品と照明器具を接続して使用することはできません。出力の設定が異なりますので出力を分けて(出力1と出力2)接続してください。



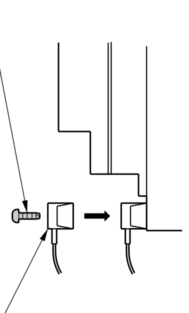
6. 外部押ボタンスイッチの配線 オプション ※ソーラー／トランス仕様共通



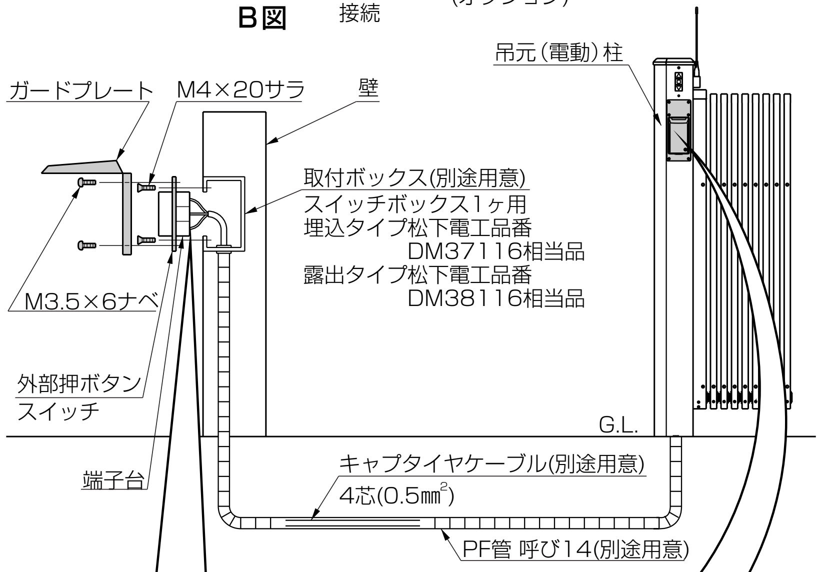
A図



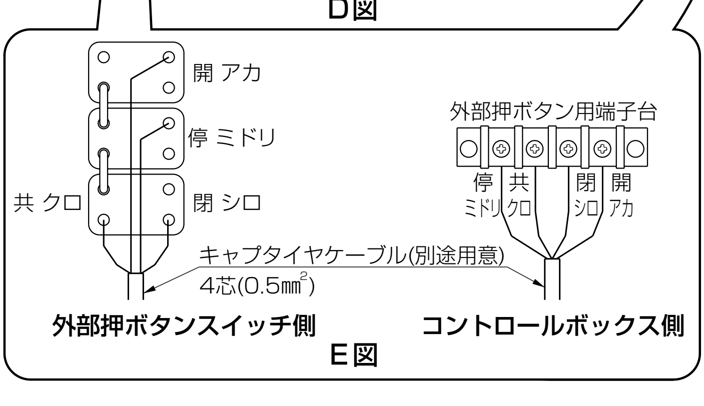
B図



C図



D図



E図

❶ コントロールボックスに接続されている、押ボタン用のコネクタをはずしてください。（A図参照）

❷ 外部押ボタンスイッチセットの端子台をコントロールボックスの下の取付孔にφ4×15タッピンネジ2本で取付けてください。（B,C図参照）

❸ 外部押ボタンスイッチセットのコネクタをコントロールボックスとはずした押ボタン用配線のコネクタに接続してください。（B図参照）

❹ キャプタイヤケーブル4芯（別途用意）を吊元（電動）柱内のコントロールボックスまで立ち上げ、外部押ボタンスイッチセットの端子台に接続してください。（E図参照）

❺ 外部押ボタンスイッチ側の端子台にキャプタイヤケーブル（4芯）を接続してください。（E図参照）

❻ 外部押ボタンスイッチを取付ボックス（市販スイッチボックス1ケ用別途用意）にM4×20サラで固定してください。（D図参照）

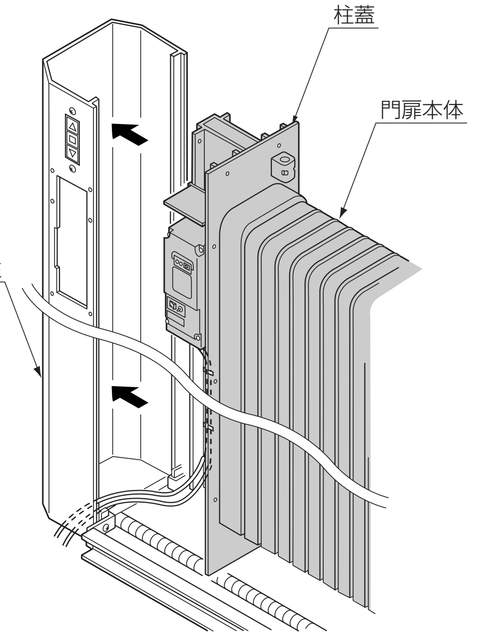
❼ ガードプレートを外部押ボタンスイッチにM3.5×6ナベで取付けてください。（D図参照）

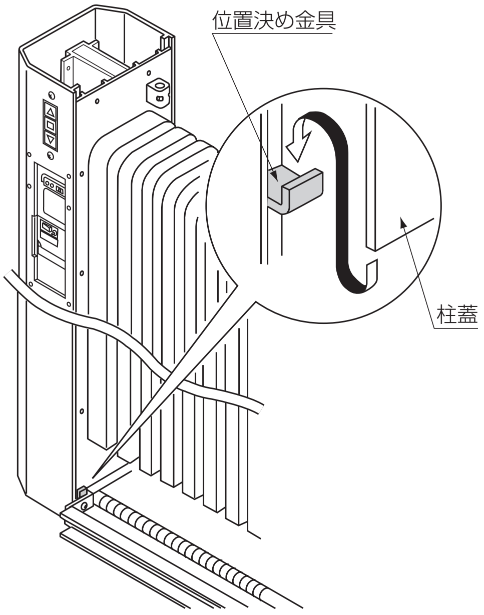
❽ ガードプレート外周をシーリングしてください。

<注 意>

- キャプタイヤケーブル0.5mmの長さは50m以内で設置してください。50mを越えると押ボタンでの操作に支障をきたします。

7．本体の取付け

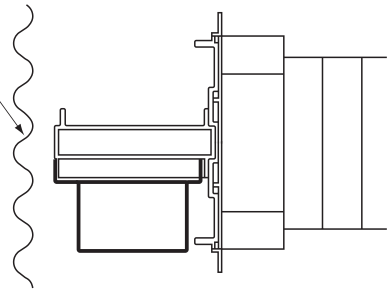


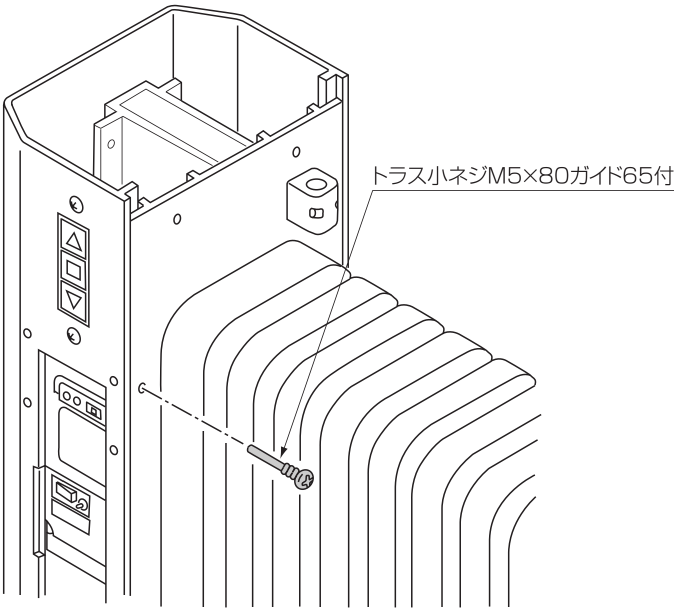


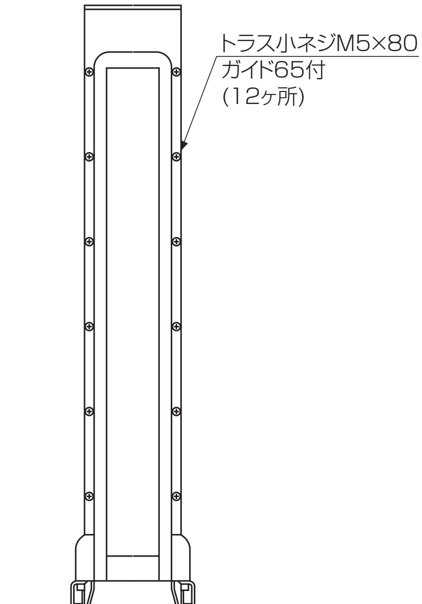
❶ 本体を吊元柱の中に入れて柱蓋を金具の上へ乗せてください。
門扉を少し広げてください。（作業しやすくなります）

＜注 意＞

● 吊元柱と柱フタの間に配線をはさまないように注意してください。







❷ 吊元本体取付ネジ（M5×80トラスガイド付）で本体を取付けてください。

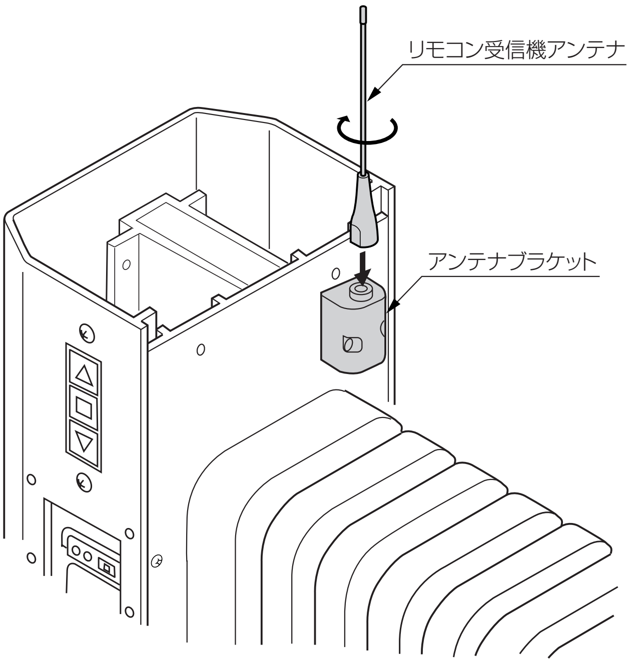
＜注 意＞

● そで壁がある場合は奥の壁側から止めるとしめやすくなります。

8．リモコン受信器アンテナの取付け

※使用環境の違いによりリモコン到達距離が短かくなる場合があります。
その場合はオプションのアンテナ延長ケーブルセットをご使用ください。

8−1　本体に取付ける場合



❶ リモコン受信器アンテナを本体吊元側上部にあるアンテナブラケットのコネクタ部に取付けてください。

＜注 意＞

- 受信感度に影響しますので、スパナ等の工具を使用し、しっかり根元まで固定してください。

8−2　アンテナ延長ケーブルセットを使用する場合　オプション

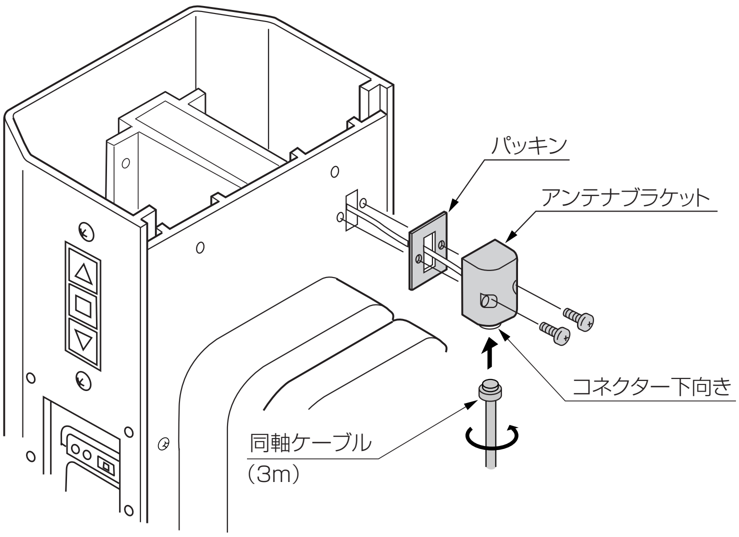
※リモコン受信器アンテナが壁などに隠れ、リモコン到達距離が短くなる場合があります。
そういうときは、オプションのアンテナ延長ケーブルセットでアンテナを見通しの良い場所に別設してください。

(1) 本体とアンテナ延長ケーブルの取付け

❶ アンテナブラケットをはずし、上下逆に取付けてください。（コネクター下向き）

＜注 意＞

- パッキンは必ず取付けてください。

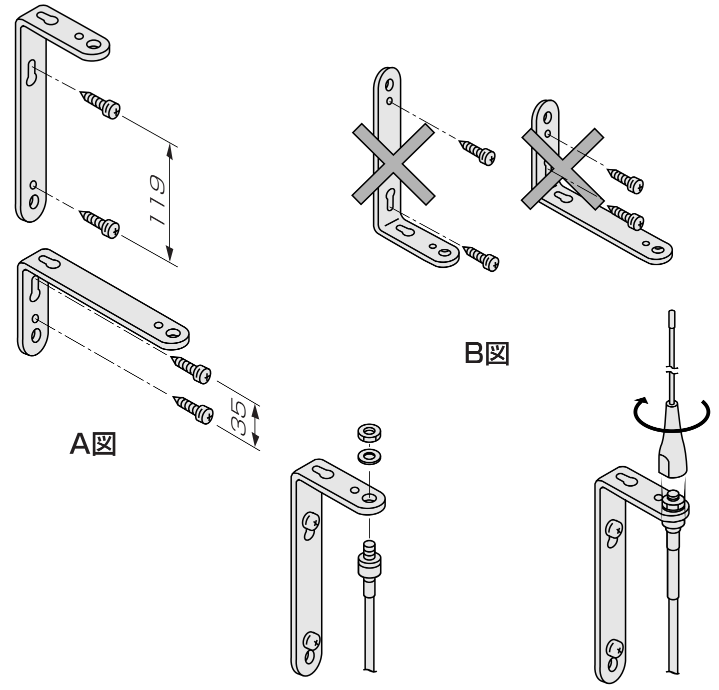


❷ コネクターにアンテナ延長ケーブルを取付けてください。

＜注 意＞

- コネクターを下向きに取付けないと故障の原因になります。
- 延長ケーブルを取付ける場合、必ずアンテナブラケットに取付けてください。

(2) アンテナの取付け



❶ アンテナ取付金具を壁に固定してください。(A図参照)

＜注 意＞

- 取付金具はできるだけ高く、金属の構造物から離れた位置に取付けてください。
- 金属に近い場合は、A図のように取付けてください。
- B図のような取付けはしないでください。

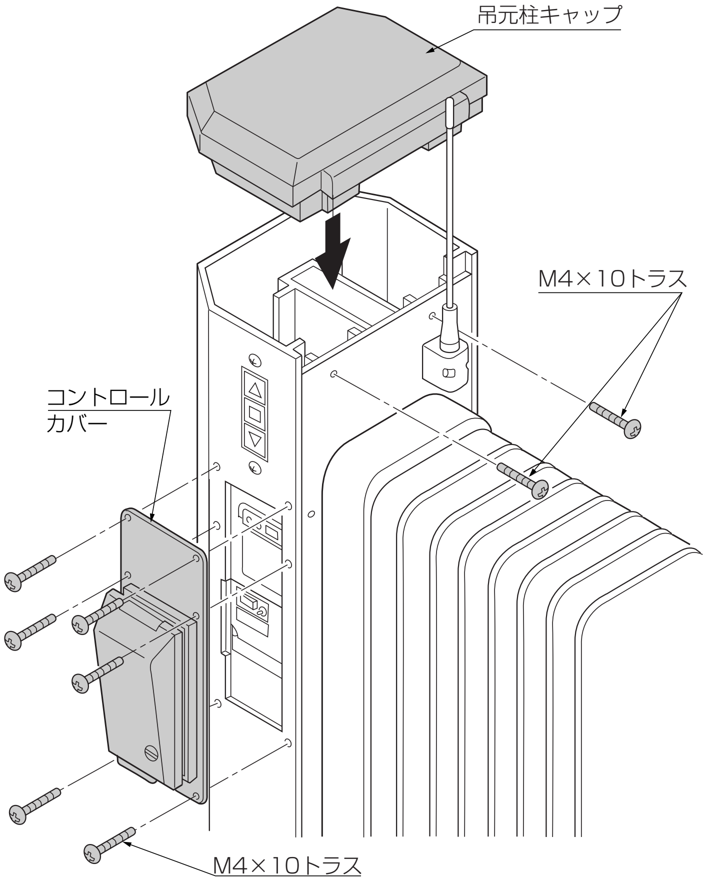
❷ ケーブルを取付けてください。(ケーブルの長さは3mです。)(C図参照)

❸ アンテナを取付けてください。(C図参照)

＜注 意＞

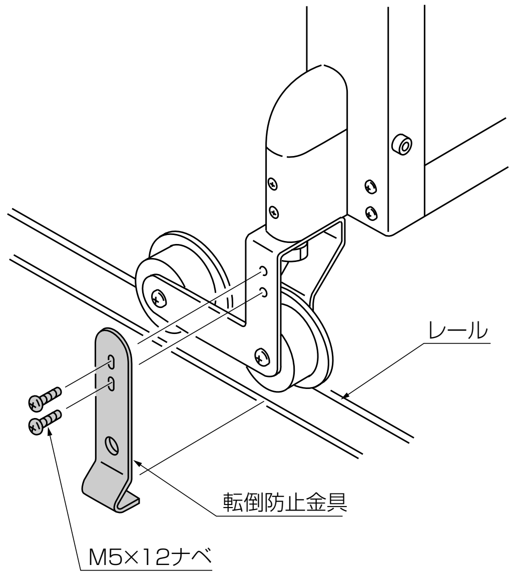
- 受信感度に影響が出ますので、スパナ等の工具を使用し、しっかり根元まで固定してください。

9. コントロールカバー、吊元(電動)柱キャップの取付け



❶ 本体の取付け、配線作業がすべて終了しましたらコントロールカバー、吊元柱キャップをM4×10トラスで取付けてください。

10. 転倒防止金具の取付け



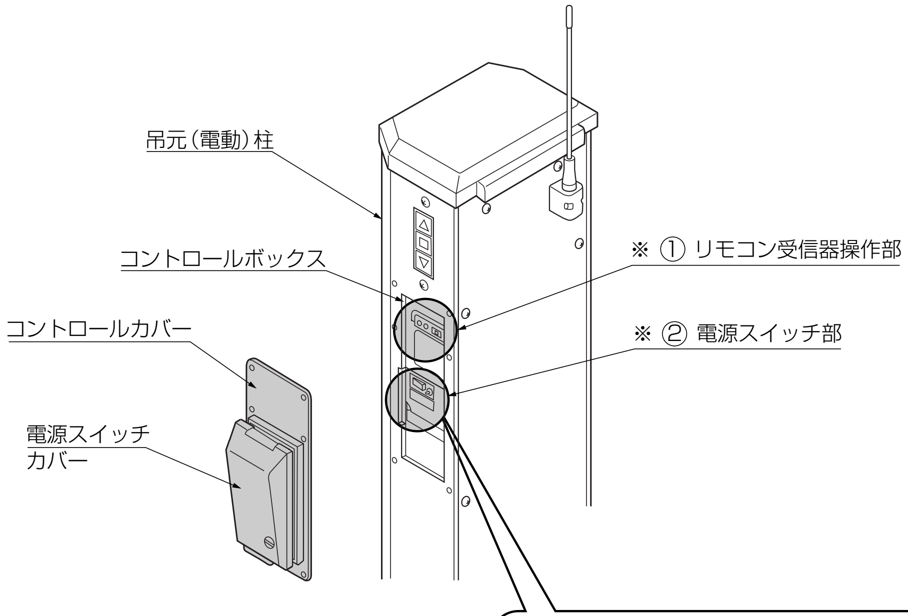
❶ 転倒防止金具取付ネジ(M5×12ナベ)で取付けてください。

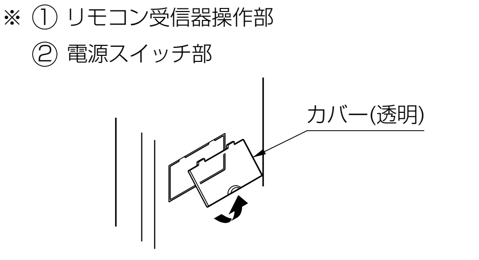
＜注 意＞

- 転倒防止金具とレールのすき間は、4〜5mm程あけ、取付けてください。
- 300S〜400Sは先頭部1ケ所
  460S〜540Sは先頭部と中間部2ケ所に取付けてください。

11．吊元（電動）柱・コントロールボックスの名称および働き

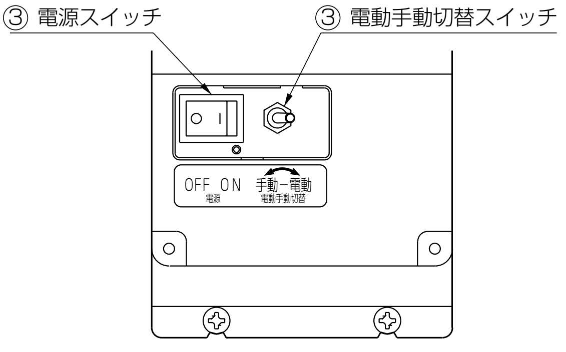
※コントロールボックス内の各スイッチ設定時のはたらきをご確認ください。





操作するときは、カバーをはずしてください。

操作後は、必ずカバーをはめてください。



電源スイッチ部拡大図

	名　称	は　た　ら　き
①	リモコン受信器操作部	リモコン送信器を登録・抹消するときに使用します。
③	電源スイッチ	電動ユニットの主電源を「ＯＮ／ＯＦＦ」させるスイッチです。 「ＯＦＦ」にするとすべてのコントロール機能が停止します。
④	電動・手動切替スイッチ	手動で門扉本体を動かすときに使用します。 ・手動で門扉本体を動かすときは、スイッチを手動側にしてください。 ・電動で門扉本体を動かすときは、スイッチを電動側にしてください。

＜注 意＞

- コントロールボックス内の配線にはふれないでください。感電するおそれがあります。

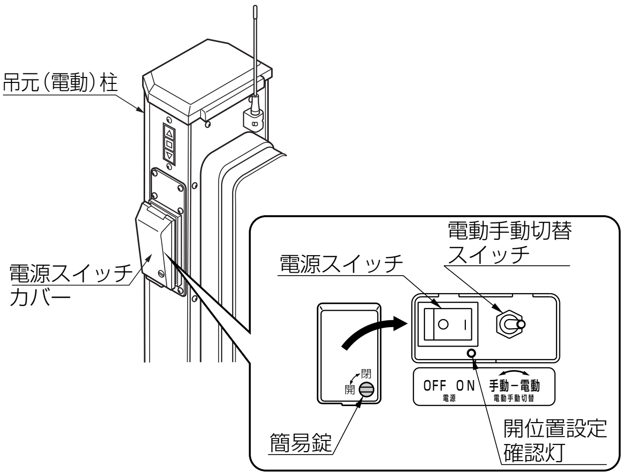
12. 全開位置の設定と動作確認

※配線作業がすべて終了したら、門扉本体を電動で動作させる前に必ず全開位置の設定が必要です。全開位置の設定を行なわないと、門扉本体はスロー動作（通常のスピードの3分の1）のままで開閉スピードが上がりません。

<注 意>

- ソーラー電源仕様の場合、電動で動作させる前にバッテリーの充電が必要です。
  (「13-1ソーラー電源仕様の場合」参照)
- トランス電源ユニットを使用する場合、トランスの出力の確認が必要です。
  (「13-2トランス電源ユニットを使用する場合」参照)

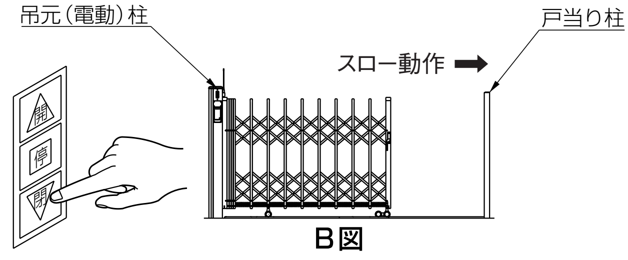
12−1 設定前の準備



A図

❶ 電動ユニットの電源スイッチカバーを開け、コントロールボックスの電動手動切替スイッチを電動側にし、電源スイッチをONしてください。(A図参照)

❷ 押ボタンの「閉」ボタンを押してください。(B図参照)
門扉本体がスロー動作で全閉し停止します。

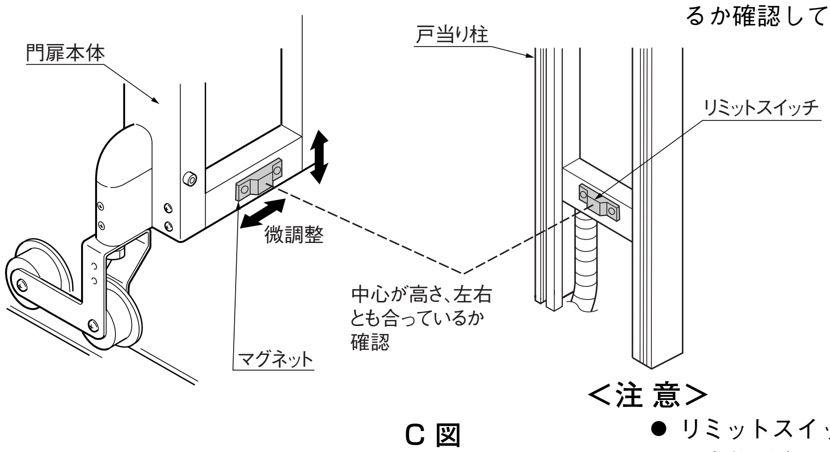


B図

<注 意>

- 門扉本体が途中で停止する場合、転倒防止金具がレールにひっかかっている場合があります。
  転倒防止金具の上下調整および、レールにモルタルなど付着していないか確認してください。

❸ 全閉状態のとき、戸当り柱のリミットスイッチと門扉本体下部のリミットスイッチ用マグネットどうしの位置が合っているか確認してください。(C図参照)



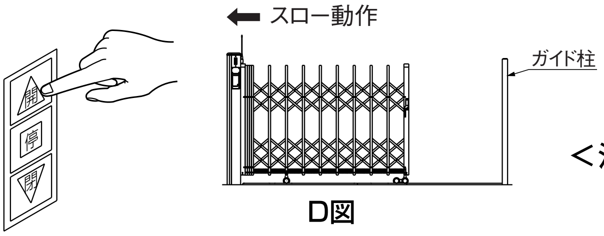
C 図

<注 意>

- リミットスイッチとマグネットの位置が合っていない場合、門扉本体が全閉した後、少し開いて停止します。その場合、マグネットの位置を微調整してください。また、リミットスイッチ用ケーブルがコントロールボックスに接続されているか確認してください。

12. 全開位置の設定と動作確認　つづき

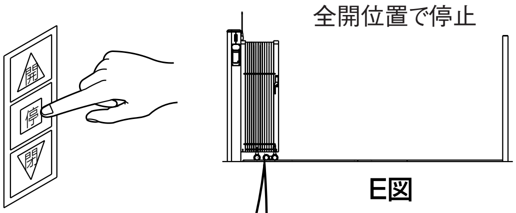
12−2　全開位置の設定



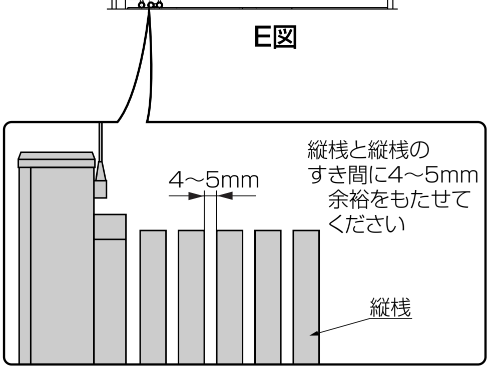
D図

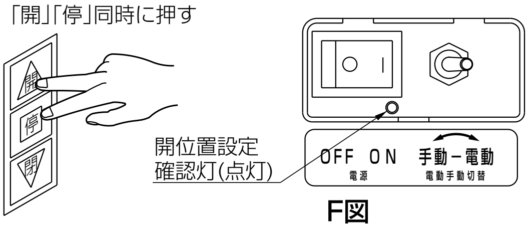
❶ 押ボタンスイッチの「開」ボタンを押してください。(D図参照)
門扉本体がスロー動作で開きます。
❷ 全開位置(任意)で「停止」ボタンを押してください。(E図参照)
門扉本体が停止します。

＜注 意＞
- 全開位置は、縦桟と縦桟のすき間が4〜5mm程度になる位置です。
- 全開位置は、「開」「閉」ボタンを押し、門扉本体を動かし調整してください。



E図



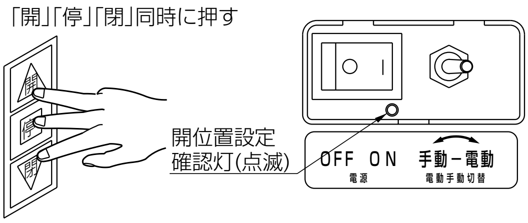


F図

❸ 全開位置が決まりましたら、その位置で「停止」と「開」ボタンを同時に3秒間以上押してください。(F図参照)
コントロールボックスの開位置設定確認灯が点灯します。

以上で全開位置の設定が終了しました。

12−3　全開位置のクリア



全開位置を変更する場合､一度全開位置をクリアし再度12-1、12-2の操作を行なってください。
❶ 「開」「停止」「閉」の3点を同時に3秒以上押してください。
コントロールボックスの開位置設定確認灯が点滅し、開位置がクリアされます。

12−4　動作確認

❶ 閉ボタンを押してください。
本体は加速し全閉手前でスローになり停止します。
❷ 開ボタンを押してください。
本体は加速し全開手前でスローになり停止します。

＜注 意＞
- ❶､❷ の動作にならない場合 12-1 12-2 の操作を再度行なってください。

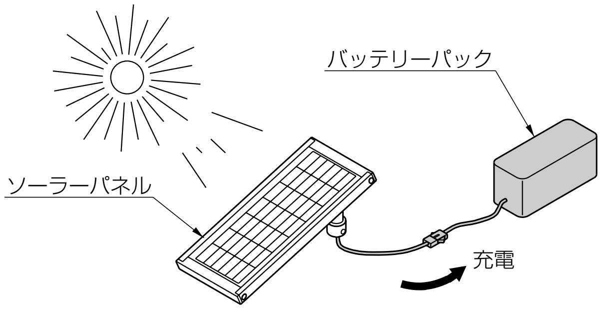
13．使用方法

13−1　ソーラー電源仕様の場合　※詳細は、「ソーラー電源セット」の取付・取扱説明書をご参照ください。

※ソーラー電源を使用する場合、電動で動作させる前にバッテリーの充電が必要です。
バッテリーは工場出荷段階では、充電が不十分ですので必ず充電した後、使用してください。

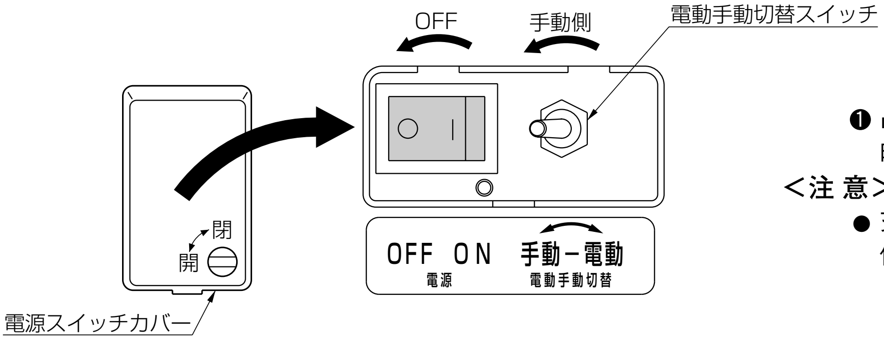
(1) バッテリーの充電方法

施工前・施工時に充電する場合



❶ ソーラーパネルとバッテリーを直接接続し、晴天下でソーラーパネルを太陽に向け１〜２日間充電してください。

施工後に充電する場合

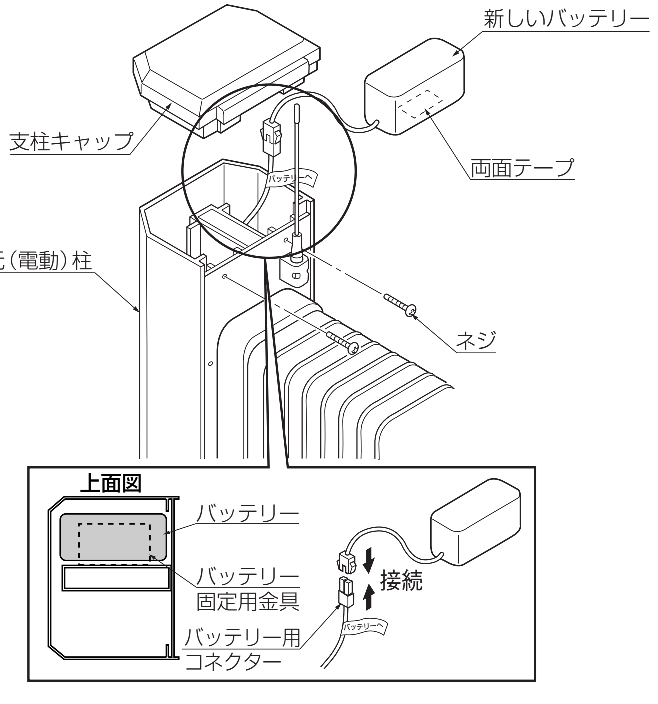


❶ 吊元（電動）柱の電源スイッチをOFFにし、晴天下で1〜2日間放置してください。

＜注 意＞
● 充電中は、電動手動切替スイッチを手動側にしてご使用してください。

(2) バッテリーの交換について

※バッテリーには寿命があります。交換時期の目安は、４〜５年です。時期が来たら交換が必要です。
また、バッテリーを充電した後にすぐに扉が電動で途中で止まるなどのバッテリー不足と思われる症状が現れた場合、すみやかにバッテリーを交換してください。



❶ 吊元（電動）柱の電源をＯＦＦにしてください。
❷ 吊元（電動）柱の支柱キャップをはずしてください。
❸ 新しいバッテリーに交換してください。
❹ バッテリーの底面の両面テープで吊元（電動）柱の金具に固定してください。
❺ はずした支柱キャップを取付けてください。

＜注 意＞
● バッテリーは使用環境により著しく寿命が短くなることがあります。
● 交換したバッテリー(ニカド電池)はリサイクル可能な貴重な資源です。使用済みのバッテリーは、リサイクルボックスが設置されている最寄りの電気店、小売店などへお持ちいただきリサイクルにご協力ください。

13. 使用方法　つづき

(3) 動作回数について

※ソーラーシステムはソーラーパネル(太陽電池)が発電する電気をバッテリーに充電し、その蓄えた電気で扉を動作させています。動作はすべてバッテリー容量の影響を受けますので、目安となる動作回数を設けています。

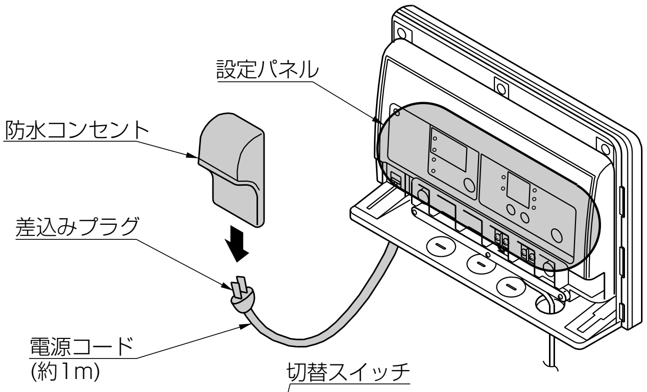
1日7往復以下または1週間で50往復以内です。なお動作時の昼夜・天候は問いません。

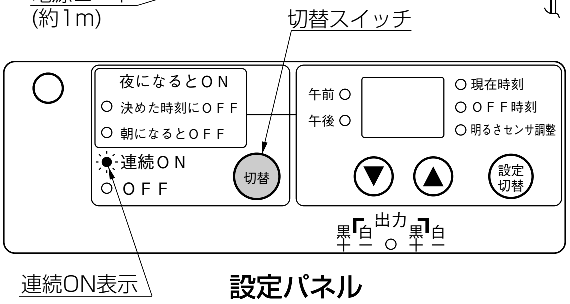
＜注 意＞

- 周囲の環境等で動作回数が少なくなることがあります。
- 動作回数の制限を超えても使用は可能ですが、1年を通して安定した動作を得るために制限以内でご使用ください。

13−2　トランス電源ユニットを使用する場合 ※詳細は、トランス電源ユニットの取扱説明書をご参照ください。

(1) 35Wタイプの出力の設定方法





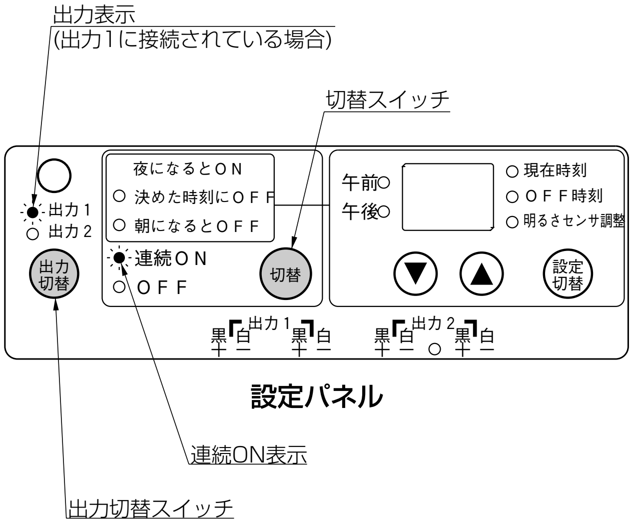
設定パネル

❶ トランス電源ユニットの差込みプラグを防水コンセントに差込んでください。
❷ 切替スイッチを押し連続ONを点灯させてください。

＜注 意＞

- 通常、出荷段階では、連続ONになっていますので切替は必要ありません。
- 電動商品を使用する場合、連続ON以外では、ご使用できませんのでご注意ください。他の設定は、照明器具に使用する設定です。
- 電動商品と照明器具は出力の設定が異なるため、同時に接続できません。どちらか一方にしか使用できません。

(2) 60Wタイプの出力の設定方法



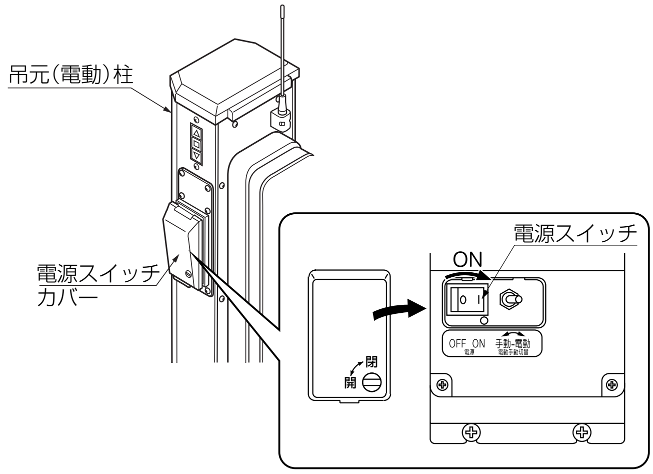
設定パネル

❶ トランス電源ユニットの差込みプラグを防水コンセントに差込んでください。
❷ 出力切替スイッチを押し電動商品が接続されている出力に切替えてください。
❸ 切替スイッチを押し連続ONを点灯させてください。

＜注 意＞

- 通常、出荷段階では、連続ONになっていますので切替えは必要ありません。
- 電動商品を使用する場合、連続ON以外では、ご使用できませんのでご注意ください。他の設定は、照明器具に使用する設定です。
- 照明器具を使用する場合の出力設定はトランス電源ユニットの取扱説明書をご、参照ください。
- 電動商品と照明器具は出力の設定が異なるため、同じ出力に接続することはできません。出力を分けて(出力1と出力2)接続してください。

13ー3　吊元(電動)柱 電源の入れ方



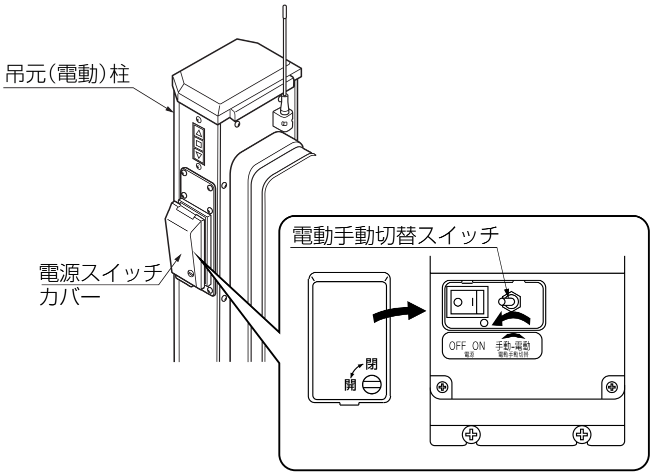
❶ 吊元(電動)柱の電源スイッチカバーを開け電源をONにします。

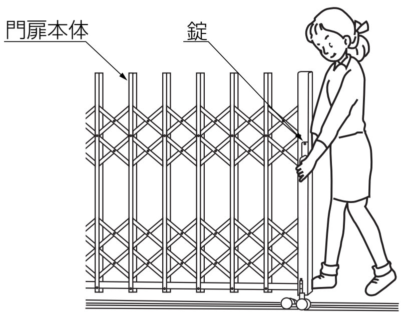
＜注 意＞

● 電源スイッチカバーには、簡易錠が付いています。コイン等で開位置（溝が平行）まで回しカバーを開けます。

13ー4　電動と手動の切替え

※非常時（停電・故障・バッテリー充電時）など電動で動かせないときは、手動で動かすことができます。
次の手順で手動に切替えてください。





❶ 吊元(電動)柱の電源スイッチカバーを開け電動手動切替スイッチを手動側にします。
手動開閉が可能となります。
開閉には約8kgの力が必要です。

＜注 意＞

● 電源のON,OFFに関係無く、電動手動切替スイッチが電動側の時は、モータによるロックがかかっています。（ロック力20～25kg）手動で開閉する場合、必ず電動手動切替スイッチを手動側にして使用してください。

❷ 門扉本体の錠を両手で持ち、ゆっくりと開閉します。

＜注 意＞

● 手動での開閉は、非常時のときに限り行なってください。通常は電動操作でご使用ください。
● 手動切替後、非常時が回復（電動で使用できる状態）したときは、コントロールボックスの電動手動スイッチを電動側にすることを忘れないでください。

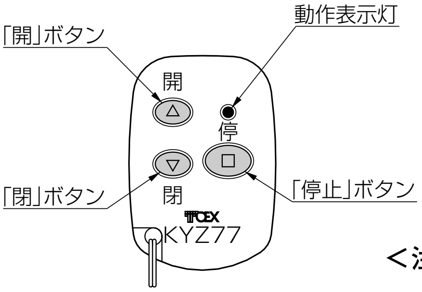
13ー5　安全装置について

※引戸が動作中に人や車、障害物に衝突したときに、大事故を防ぐために安全装置が設定されています。
開閉動作中に安全装置が作動した場合、閉側は、約1秒後退し停止します。開側は、その場で停止します。
安全装置が働く力は15kgです。

13. 使用方法　つづき

13−6　リモコン送信器での操作方法

※リモコン送信器の押ボタンを押して門扉本体を開閉してください。



MDC-3リモコン送信器

❶「開」ボタンを１回押し、2秒以内にもう1回押してください。【ダブルクリック】
動作表示灯が点滅し、送信され門扉本体が開きます。

❷「停止」ボタンを押してください。
動作表示灯が点滅し、送信され門扉本体が停止します。

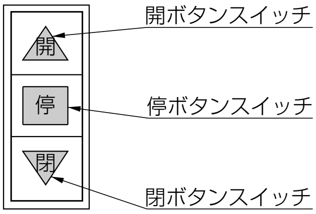
❸「閉」ボタンを１回押し、2秒以内にもう1回押してください。【ダブルクリック】
動作表示灯が点滅し、送信され門扉本体が閉じます。

＜注 意＞

- リモコン送信器の実用到達距離約10m以内で操作してください。
- 「開または閉」ボタンを２回押す間隔が２秒を超えると送信されませんのでご注意ください。
- 安全上「停止」ボタンに限り１回押すだけで送信されるようになっています。
- 開／閉動作中に逆方向の閉または開動作させるときは、必ず一度「停止」ボタンを押してから次の押ボタンを押してください。

13−7　吊元（電動）柱押ボタンスイッチでの操作方法

※吊元（電動）柱に付いている押ボタンスイッチを押して門扉本体を開閉してください。



押ボタンスイッチ

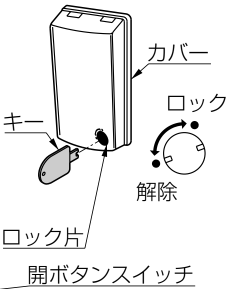
❶ 開ボタンスイッチを押すと門扉本体が開きます。

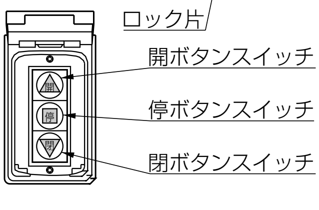
❷ 停ボタンスイッチを押すと門扉本体が停止します。

❸ 閉ボタンスイッチを押すと門扉本体が閉じます。

13−8　外部押ボタンスイッチでの操作方法　オプション

※道路側に付ける外部押ボタンスイッチを押して門扉本体を開閉してください。





外部押ボタンスイッチ

❶ 付属のキーをロック片に差込み、左にまわしカバーを開けてください。

❷ 開ボタンスイッチを押すと門扉本体が開きます。

❸ 停ボタンスイッチを押すと門扉本体が停止します。

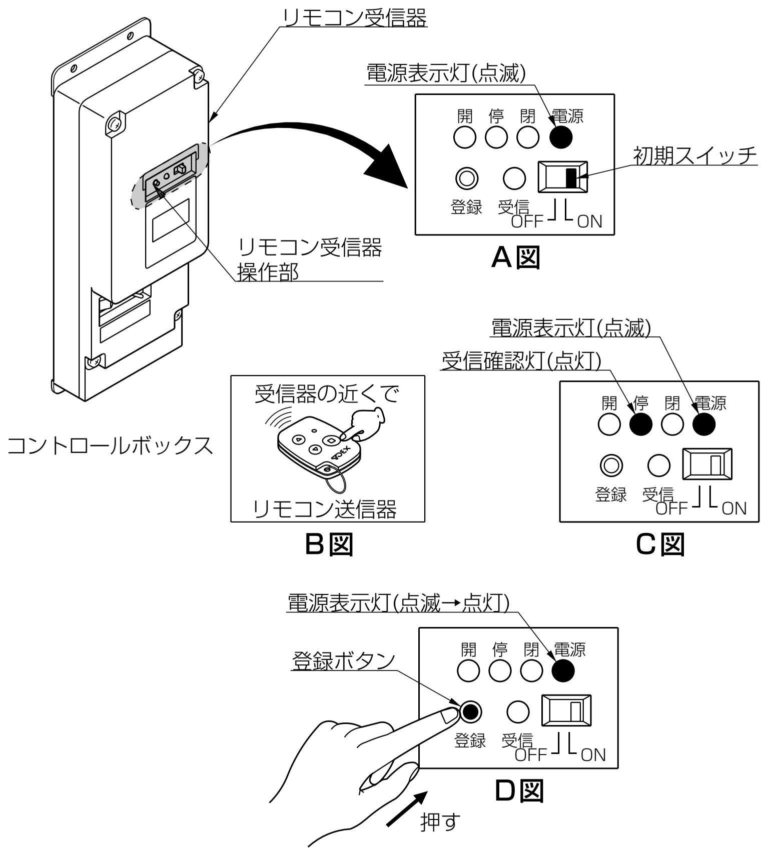
❹ 閉ボタンスイッチを押すと門扉本体が閉じます。

❺ カバーを閉め、付属のキーをロック片に差込み、右にまわしロックしてください。

14. リモコン送信器について

※リモコン送信器で操作する場合は、リモコン受信器に登録をしてください。
※リモコン送信器はコイン型リチウム電池(ＣＲ2032)を１個使用します。
　出荷時、電池は送信器に内蔵されています。

14−1　初めて登録するとき(登録方法)



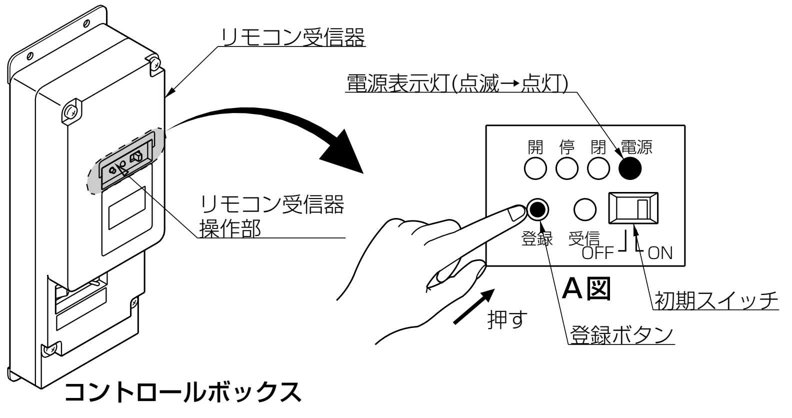
❶ 吊元(電動)柱のコントロールカバーをはずしてください。
❷ リモコン受信器の初期スイッチを「ＯＮ」にしてください。
電源表示灯が点滅(緑色)します。
(Ａ図参照)
点滅しない場合は、初期スイッチを一度「ＯＦＦ」にし、もう一度「ＯＮ」側にします。
❸ リモコン受信器の近くで、登録するリモコン送信器の「停止」ボタンを押してください。(Ｂ図参照)
リモコン受信器の受信確認灯「停」が点灯(赤色)し、送信器登録が完了します。
(Ｃ図参照)
❹ リモコン送信器の登録完了後、リモコン受信器の登録ボタンを押して登録または電源表示灯が「点灯」に変わるまで待ってください。(Ｄ図参照)
電源表示灯が「点灯」になり、受信器登録が完了します。
❺ はずしたコントロールカバーを取付けてください。ネジの締め忘れのないように注意してください。

<注 意>

- 受信器への登録は、必ず電源表示灯が「点滅している１分間」に操作してください。
- 初期スイッチを「ＯＦＦ」にすると、リモコン送信器の登録がすべて抹消されます。登録が抹消された場合、リモコン送信器での操作はできなくなります。

14−2　リモコン送信器を増やすとき(追加登録方法)

※リモコン送信器を増やす場合、初期スイッチは「ＯＮ」の状態で登録してください。



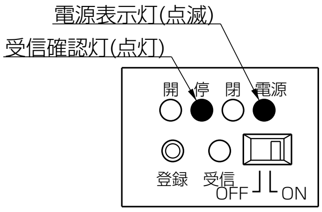
❶ 吊元(電動)柱のコントロールカバーをはずしてください。

❷ リモコン受信器の登録ボタンを押してください。(Ａ図参照)。
電源表示灯が点滅(緑色)します。
(Ａ図参照)
リモコン送信器は、最大16個が「登録可能」です。

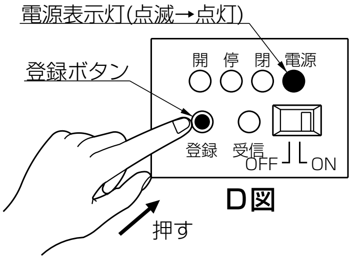
14．リモコン送信器について つづき

14ー2　リモコン送信器を増やすとき(追加登録方法)　つづき

B図



C図



D図

❸ リモコン受信器の近くで、登録するリモコン送信器の「停止」ボタンを押してください。(Ｂ図参照)
リモコン受信器の受信確認灯「停」が点灯(赤色)し、送信器登録が完了します。
(Ｃ図参照)

❹ リモコン送信器の登録完了後、リモコン受信器の登録ボタンを押して登録または電源表示灯が「点灯」に変わるまで待ってください。(Ｄ図参照)
電源表示灯が「点灯」になり、受信器登録が完了します。

❺ はずしたコントロールカバーを取付けます。ネジの締め忘れのないように注意してください。

＜注 意＞

- リモコン送信器を増やす場合、初期スイッチは絶対に動かさないでください(「ＯＮ」側のままで固定)。「ＯＦＦ」にすると、登録がすべて抹消され、リモコン送信器での操作はできなくなります。
- 受信器への登録は、必ず電源表示灯が「点滅している１分間」に操作してください。

14ー3　登録取り消し方法

❶ すべての登録を取り消す場合は、リモコン受信器の初期スイッチを「ＯＦＦ」側にしてください。

14ー4　電池の交換方法について

※リモコンの到達距離が短くなったり、動作表示灯が点滅しなくなるなどの兆候があった場合は、速やかに新しい「リチウム電池ＣＲ2032」とお取り替えください。
電池寿命は、１日10回(開・閉・停いづれか１操作／回)使用にて約５年です。

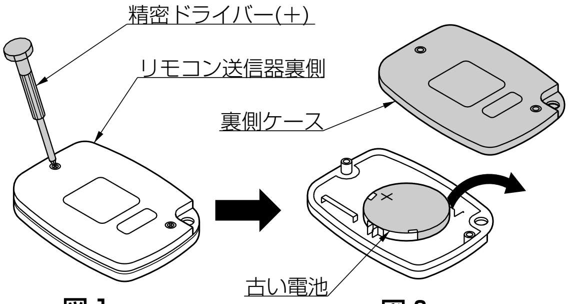


図１　図２

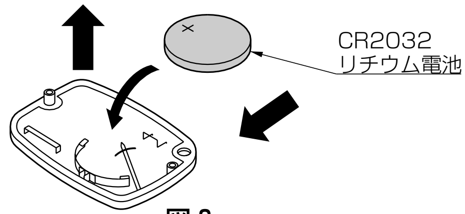


図３

❶ リモコン送信器の裏側のネジ(２箇所)を精密ドライバー等ではずしてください。(図１参照)

❷ リモコン送信器の裏側のケースをはずし古い電池を取り出してください。
(図２参照)

❸ 新しい電池を「十マーク」が見える向き(上側)にはめ込んでください。(図３参照)

❹ はずしたケースを取付けてください。
(図１参照)

＜注 意＞

- 電池の極性「十、ー」を確認の上セットしてください。
- 電池交換の際は、水分やほこり等が入らないようにご注意ください。また、回路部に触れぬようにご注意ください。

15. 施工の最終確認

作動テストと確認

- 吊元（電動）柱の電源をONにし、電動手動切替スイッチを電動側にして確認してください。
  ※ 13-3 吊元（電動）柱の電源の入れ方参照。

項　目	テストと正常動作	異常と対応処置
作動確認	押ボタンスイッチ・リモコンを押して確認。 電動で動作する。	ソーラー使用で動作しない。途中で停止する 電源スイッチをONにする。(23ページ参照) 電動手動切替スイッチを電動側にする。(23ページ参照) 配線の確認。(6～10ページ参照) バッテリーを充電する。(21ページ参照) トランス仕様で動作しない 電源スイッチをONにする。(23ページ参照) 電動手動切替スイッチを電動側にする。(23ページ参照) トランスの出力の確認。連続出力にする。(22ページ参照) 配線の確認。(11～13ページ参照) トランス側の配線の極性「＋、－」の接続の確認。 ※逆接続した場合、コントロールボックス内のヒューズが切れます。付属の予備ヒューズと交換してください。 リモコンで動作しない リモコンアンテナの確認。(16ページ参照) リモコン使用範囲・使用方法の確認。(24ページ参照) リモコン登録の確認。(25、26ページ参照)
全開位置設定の確認	全開・全閉で停止する。	戸当り柱にあたり少し戻って停止する。 リミットスイッチの位置がずれています。 マグネットの取付位置確認。(19ページ参照) 全開位置で停止しない 全開位置を設定する。(19、20ページ参照) 途中で停止する。 転倒防止金具の確認。 (17ページ参照)
スロースタート・ストップ機能の確認 (注1)	スローで動き出し、加速し、スローで停止する。	スロー動作のままで加速しない。**(注2)** 一度、全開状態にしてから再度、動作を確認する。 全開位置の設定を行なわないと、スロー動作のままです。 全開位置の設定を行なってください。(19、20ページ参照)
動作中の確認	振動・異音がない。	振動・異音がする 本体の取付けの確認。(15ページ参照) 転倒防止金具の確認。(17ページ参照)

＜注 意＞

- 本製品は、インバーターモーターにより、スロースタート・スローストップの機能が付いています。
- 扉本体が全閉以外の位置で電源をOFFにし、その後電源をONにすると扉の動作はスロー動作となります。
  スロー動作になった場合、必ず一度全閉状態にしてください。一度全閉状態にすると通常の動作に戻ります。

16．仕様

項　目	仕　様
入　力　電　圧	DC12V
消　費　電　力	10VA（動作時平均）
モータ定格出力	10W
開　閉　時　間	12cm／秒
操　作　方　法	押ボタンスイッチ、リモコン
リモコン到達距離	10m（周囲の環境で到達距離が短くなることがあります。）

工事店様へ

●仕上げ後、本体についているモルタルを完全に拭き取ってください。硬化後拭き取りますと表面を痛めますのでご注意ください。

●施工終了後、取付説明書は施主様にお渡しください。

●ご使用いただきましてありがとうございました。

施主様へ

●月に一度程度のお手入れで美しさが長く保てます。汚れの軽い場合は水にぬらしたやわらかいぞうきんで拭き取ってください。
また汚れのひどい場合はうすめた中性洗剤で拭き取ったのち洗剤が残らないように拭き取ってください。

取説コード
D313
200102A